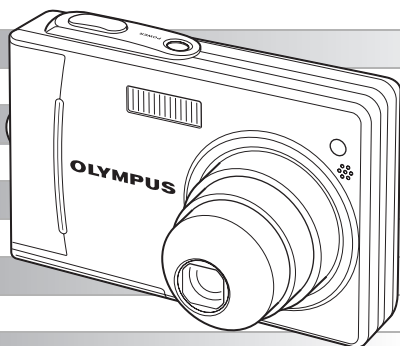
CAMEDIA
デジタルカメラ

X-600
D-630 ZOOM
FE-5500

取扱説明書

応用編

カメラを使いこなすための
すべての機能について説明しています。

OLYMPUS
POWER

● ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、海外旅行などの大切な撮影の前には試し撮りをしてカメラが正常に機能することをお確かめください。
● 取扱説明書で使用している液晶画面やカメラのイラストは、実際の製品とは異なる場合があります。

取扱説明書の使い方

●「基本編」と「応用編」について

このカメラの取扱説明書は、基本編と応用編（本書）の2冊で構成されています。

基本編　まず、カメラを手に取って使ってみましょう。撮影して再生するまでを簡単に説明しています。

応用編　カメラの使い方に慣れたら、カメラの他の機能も使ってみましょう。もっときれいに、もっと楽しく撮れるように多くの機能が用意されています。

●表記について

本書の表記について説明します。本書を読みすすめる前にご確認ください。

! ご注意
故障やトラブルになるような、重要な注意事項が書かれています。絶対に避けていただきたい操作も書かれています。

? ヒント
活用するために、知っておくと便利なことや役に立つ情報などが書かれています。

☞
本書での参照先のページを書いています。

各操作ページの表記および見方については「操作ページの使い方」（P.21）をご覧ください。

取扱説明書の構成

各章の扉ページには、それぞれの章に関連したコラムを記載しています。
ぜひご覧ください。

もくじ

4 いろいろな撮影機能 - - - - - - - - - - - - - - - - - - 45

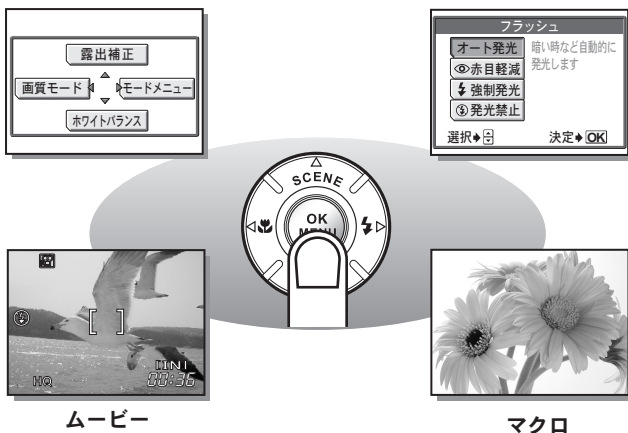
5 再生 - 55

6 設定 - 71

10 資料 - 125

カメラの基本操作

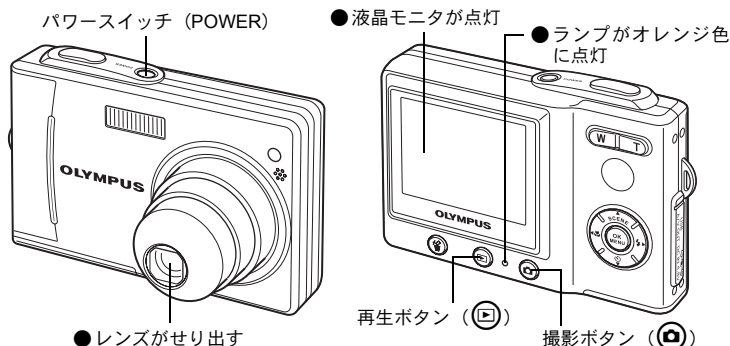
1

いろいろな機能があるけれど使いこなせそうもない、とあきらめていませんか？
デジタルカメラを使うあなたはボタンを操作するだけ。メニューを設定すれば、液晶モニタを見やすくしたり、画像の色合を調整するなどの機能を簡単に使うことができます。
メニューの設定は、液晶モニタを見ながらボタン操作で行います。各機能の説明を読む前に、まずはボタンとメニューの操作方法をマスターしましょう。

撮影ボタンと再生ボタンの使い方

このカメラには撮影モードと再生モードがあります。撮影するときや撮影に関する設定をするときは撮影モードに、撮影した画像を表示するときは再生モードにします。
撮影モードと再生モードは、◎と▶で切り換えます。また、▶を押すと、再生モードで電源を入れることができます。

●撮影モードで電源を入れる

パワースイッチを押します。

• 撮影モードで電源が入ります。この状態で撮影できます。

電源を切るときは•••

→ パワースイッチを押します。レンズが収納されて液晶モニタとランプが消灯します。

再生モードにするときは•••

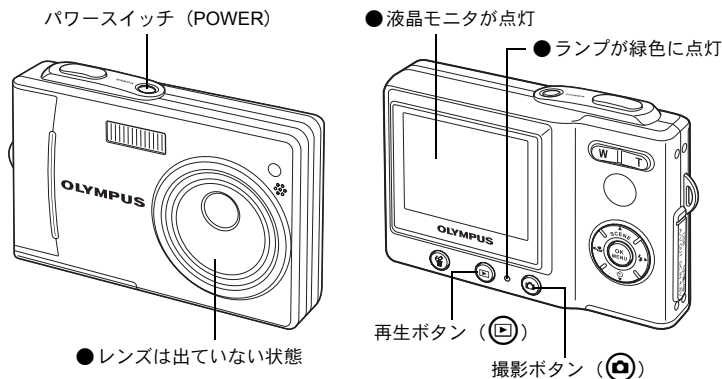
→ ▶を押します。レンズがせり出した状態で再生モードになります。撮影モードに戻るときは、◎を押します。

! ご注意

• 撮影モードの場合、または▶を押して撮影モードから再生モードに切り換えた場合は、電源を入れたまま約3分間何も操作しないと、電池の消耗を防ぐためにスリープモード（待機状態）になり、カメラは動作を停止します。シャッターボタンやズームボタンなどを操作するとカメラはすぐに撮影モードで動作を再開します。
• スリープモードに入ってから約15分後には自動的に電源が切れます。もう一度電源を入れ直してください。

●再生モードで電源を入れる

電源オフの状態で、▶を押します。

- 再生モードで電源が入ります。液晶モニタに最後に撮影した画像が表示されます。

電源を切るときは•••

→ パワースイッチを押します。液晶モニタとランプが消灯します。

撮影モードにするときは•••

→ 📷を押します。レンズがせり出し、撮影モードになります。再生モードに戻るときは、▶を押します。レンズはせり出した状態のままです。

ご注意

- 電源を入れた後に液晶モニタが一瞬光り、しばらくしてから画像が表示されることがありますが、故障ではありません。
- ▶を押して再生モードで電源を入れた場合、約15分間何も操作しないと、電池の消耗を防ぐために自動的に電源が切れます。もう一度電源を入れ直してください。

●撮影モード・再生モードを切り換える

またはを押して、撮影モードと再生モードを切り換えることができます。

撮影するとき（撮影モード）

・液晶モニタに被写体が表示されます。

再生するとき（再生モード）

・液晶モニタに最後に撮影した画像が表示されます。

撮影モード・再生モードの表記

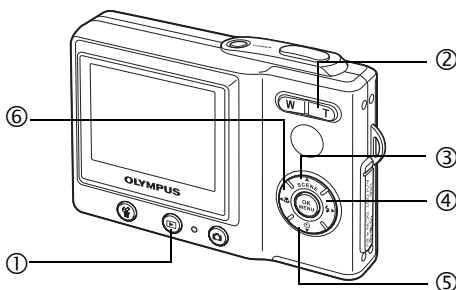
本書では、各機能を操作するときのカメラの状態を以下のアイコンで示します。

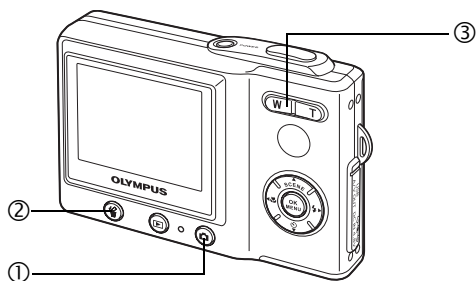
 撮影モードであることを示します。

 再生モードであることを示します。

ダイレクトボタンの使い方

撮影モードと再生モードで使用できるボタンが異なります。

●撮影モード

①	▶（再生）ボタン	☞P.12
	再生モードに切り換わります。	
②	ズームボタン	☞P.39
	W ：広角撮影します。 T ：望遠撮影します。	
③	△SCENE（シーンモード）ボタン	☞P.36
	カメラ内蔵の撮影シーンから撮影状況に合った設定を選択することができます。また、ムービーを撮影するときもこのボタンを押します。	
④	▷⚡（フラッシュモード）ボタン	☞P.42
	フラッシュモードを選択します。	
⑤	▽セルフタイマー（セルフタイマー）ボタン	☞P.47
	セルフタイマー撮影のオン／オフを切り換えます。	
⑥	◁🌷（マクロ）ボタン	☞P.41
	マクロ撮影のオン／オフを切り換えます。	

●再生モード

①	(撮影)ボタン	☞P.12
	撮影モードに切り換わります。	

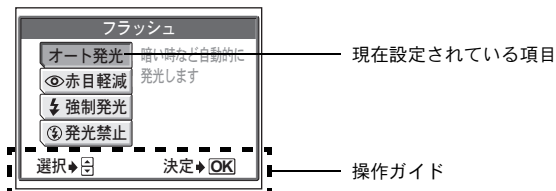
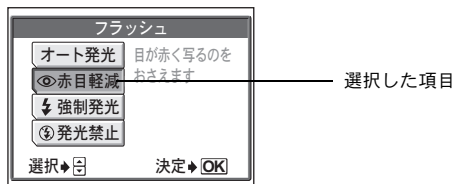
②	(消去)ボタン	☞P.68
	表示している画像を消去します。	

③	ズームボタン	☞P.56
	:インデックス再生をします。 :クローズアップ再生をします。	

ダイレクトボタンの操作方法

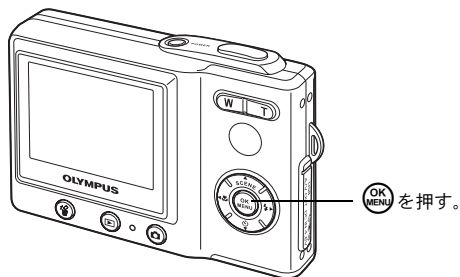
基本機能はダイレクトボタン操作で手軽にできます。十字ボタン（△▽◁▷）と OK/MENU を使って設定します。画面に使用するボタンが表示されますので、それにしたがって選択、設定します。
ここでは▷⚡を使って、フラッシュモードを設定する操作について説明します。

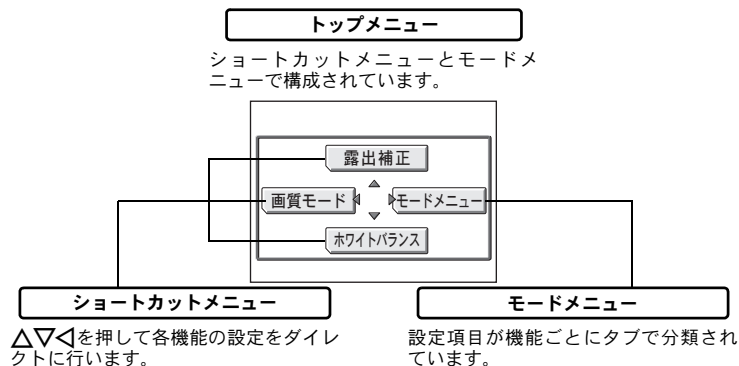
1 撮影モードで▷⚡を押します。

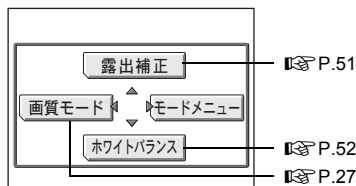
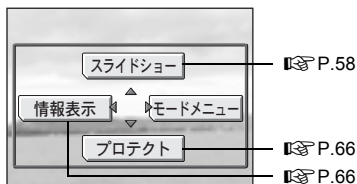
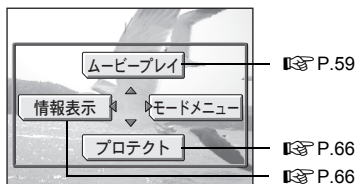
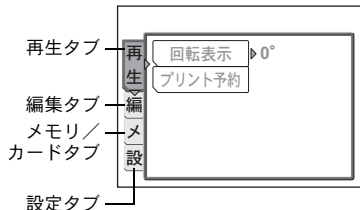
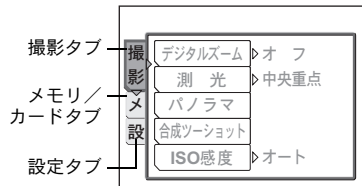
• フラッシュモード選択画面が表示されます。

2 △▽を押してフラッシュモードを選択します。

3 OK/MENU を押します。

• 撮影できる状態になります。

メニューの使い方

撮影モードまたは再生モードで OK/MENU を押すと、液晶モニタにメニューが表示されます。カメラの各設定はこのメニューで行います。

メニューの種類

撮影モードと再生モードでは、表示されるメニュー項目が異なります。

ショートカットメニュー

撮影時

静止画再生時　ムービー再生時

モードメニュー

撮影タブ	撮影に関する設定をします。
メモリ／カードタブ	内蔵メモリまたはカードをフォーマットします。内蔵メモリのデータをカードにバックアップします。
設定タブ	カメラの基本的な設定や使いやすくするための設定を行います。

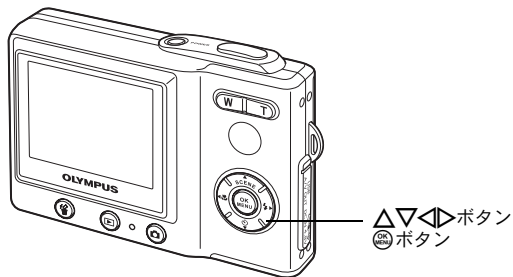
再生タブ	回転表示とプリント予約を行います。
編集タブ	撮影した画像を編集します。
メモリ／カードタブ	内蔵メモリまたはカードのフォーマットや全コマ消去をします。内蔵メモリのデータをカードにバックアップします。
設定タブ	カメラの基本的な設定や使いやすくするための設定を行います。

ヒント

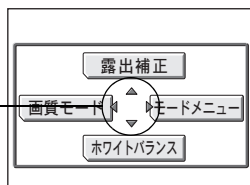
- 内蔵メモリを使用する場合は［メモリ］タブ、カメラにカードをセットしている場合は［カード］タブが表示されます。
- 撮影モードと再生モードのモードメニューで共通のメニュー項目は、いずれのモードで設定しても同じ設定になります。
- 撮影モード、再生モードのメニューの各項目については「メニュー一覧」（P.126）を参照してください。

メニューの操作方法

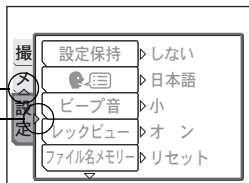
メニューは十字ボタン（△▽◁▷）と(OK/MENU)を使って設定します。
メニュー画面に使用する十字ボタンや操作ガイドが表示されますので、それにしたがって選択、設定します。ここでは、メニュー画面とその操作について説明します。

例：［ファイル名メモリー］を設定する場合

1　撮影モードで(OK/MENU)を押します。

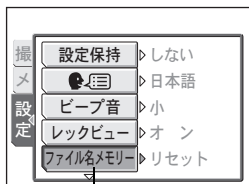
- トップメニューが表示されます。

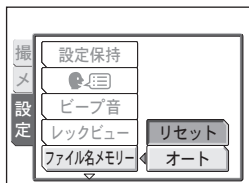
2　▷を押して［モードメニュー］を選択します。

3 △▽を押して［設定］タブを選択し、▷を押します。

- 画面に表示された十字ボタンにしたがって選択・設定します。

十字ボタン（△▷）を表しています。

4 △▽を押して［ファイル名メモリー］を選択し、▷を押します。

- 画面に表示された十字ボタンにしたがって選択・設定します。
- 設定できない項目は選択できません。

選択した項目は凹んで見えます。

5 △▽を押して［リセット］または［オート］を選択し、OK/MENUを押します。

- OK/MENUを繰り返し押すと、メニューが終了します。

メニュー操作の表記

本書では、メニューでの操作手順を次のように表記しています。

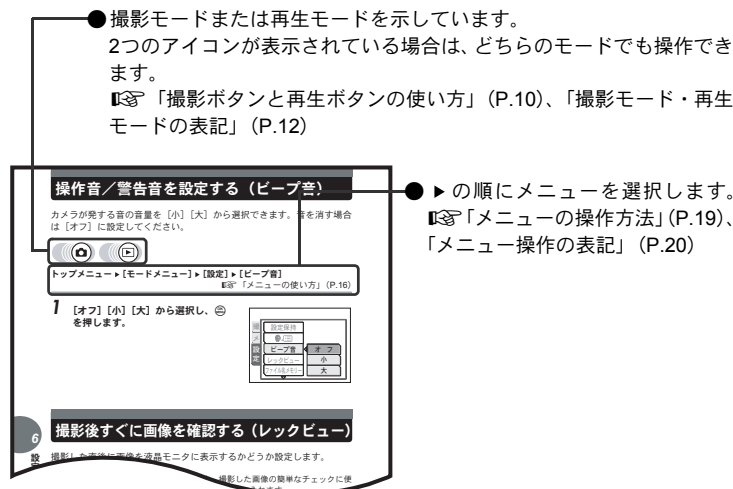
- 例：［ファイル名メモリー］を設定する場合の手順1〜4

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［設定］▶［ファイル名メモリー］

操作ページの使い方

各機能の操作ページの表記について説明します。撮影・再生を始める前にご確認ください。

●撮影モードまたは再生モードを示しています。
2つのアイコンが表示されている場合は、どちらのモードでも操作できます。
☞「撮影ボタンと再生ボタンの使い方」(P.10)、「撮影モード・再生モードの表記」(P.12)

● ▶の順にメニューを選択します。
☞「メニューの操作方法」(P.19)、「メニュー操作の表記」(P.20)

このページは説明のためのサンプルです。実際のページとは異なる場合があります。

撮影前に知って おきたいこと

2

P（プログラム）オートに設定してシャッターボタンを押すだけで、ほとんどの場合は上手く撮ることができます。でも、どうしても被写体にピントが合わない、被写体が暗く撮れてしまうなど、思い通りに撮れない・・・・ということはありませんか？
そんなとき、ちょっとした撮影のコツを活用したり、カメラの簡単な機能を使うだけで、問題が解消する場合もあります。
また、撮影後の画像の利用方法に合わせて画像サイズを選択して撮影すると、1 枚のカードにより多くの画像を記録することができます。これも“ちょっとしたコツ”のひとつです。

カメラの正しい構え方

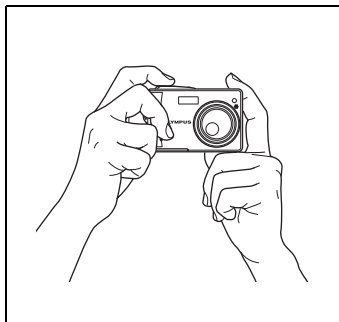
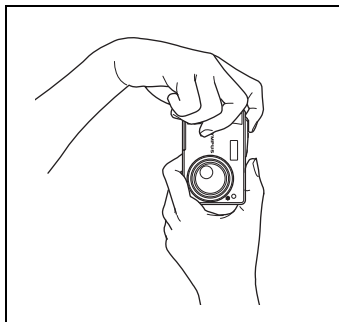
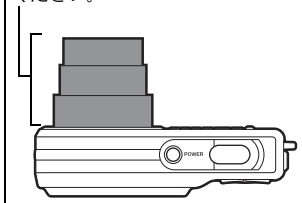
撮影した画像を見ると、被写体の輪郭がはっきりしないときがあります。このようなときはシャッターボタンを押し込んだ瞬間にカメラを持つ手がぶれたり、カメラが動いたりしていることがあります。

被写体の輪郭がはっきりしない画像

このような失敗を防ぐために、カメラは脇を締めて両手でしっかり持ちましょう。カメラを縦位置で持つときは、フラッシュがレンズより上になるように持ちます。レンズとフラッシュに指やストラップがかからないよう、ご注意ください。

横位置

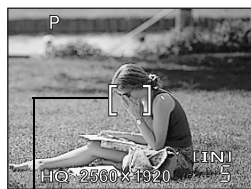
縦位置

上面図

ピントが合わないとき

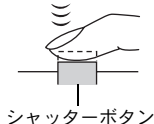
カメラは撮影する構図の中で、自動的にピントを合わせるべきものを検出します。被写体を検出する際、コントラストの強さも判断の基準になります。被写体のコントラストが周囲に比べて弱いときや、よりコントラストの強い部分が構図の中にあるときは、カメラは判断を誤る場合があります。その場合のもっとも簡単な対処法にフォーカスロックがあります。

ピント合わせの方法（フォーカスロック）

1　ピントを合わせたいものにAFターゲットマークを合わせます。

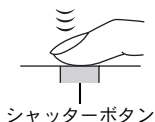
- ピントが合いにくいものや速く走るものの場合、まず撮影したいものとほぼ同じ距離のものにカメラを向けます。

AFターゲットマーク

2　シャッターボタンを緑ランプが点灯するまで押します（半押し）。

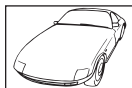
- ピントと露出が固定されると、緑ランプが点灯します。
- 緑ランプが点滅したときは、ピントと露出が固定されていません。シャッターボタンから指を離し、ピントを合わせる位置を少しずらしてもう一度シャッターボタンを半押ししてください。

シャッターボタン

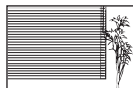
3　半押しの状態のまま撮影したい構図にします。

緑ランプ

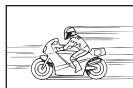
4 シャッターボタンを押し込みます（全押し）。

オートフォーカスの苦手な被写体

次のような場合、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。

緑ランプ点滅
このようなものにはピントが合いません。

コントラストがはっきりしない被写体

画面中央に極端に明るいものがある場合

縦線のないもの

緑ランプは点灯するが、写したいものにピントが合わない。

遠いものと近いものが混在する場合

動きの速いもの

ピントを合わせたいものが中央にない

いずれの場合も、被写体と同距離にあるコントラストのはっきりとしたものでピントを合わせた後、構図を決めて撮影してください。また、縦線のない被写体の場合は、カメラを縦位置に構えてピントを合わせた後、構図を横に戻して撮影しても効果的です。

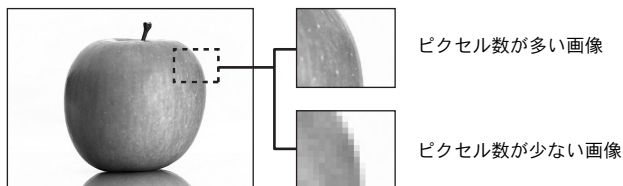
画質について

撮影する画像の画質を設定します。プリント用、パソコンでの加工用、ホームページ用など、用途に合わせて画質モードをお選びください。各画質モードでの画像サイズや撮影可能枚数・時間については、P.28の表をご覧ください。

静止画の画質モード

画質モードは、記録する画像のピクセル数と圧縮する度合いの組み合わせを表しています。
画像はピクセル（点）の集まりでできています。ピクセル数が少ない画像を拡大するとモザイク状に表示されます。ピクセル数が多い画像は１枚の画像のファイルサイズ（データの量）が大きくなり、記録できる枚数が少なくなりますが、密度が高く精細になります。圧縮率が高いほどファイルサイズは小さくなりますが、画像を表示したときに粗く見えます。

ピクセル数が多い画像

ピクセル数が少ない画像

画像が精細になる ←

画像サイズが大きくなる ↑

用途	圧縮 / 画像サイズ	低圧縮	高圧縮
プリントサイズに合わせて選択	2590 × 1920	SHQ	HQ
	1600 × 1200	—	SQ1
小さいプリントやホームページ用	640 × 480	—	SQ2

画像サイズ

画像を記録する際の大きさ（横の画素数×縦の画素数）です。画像をプリントするときは、大きな画像サイズで記録しておくときれいにプリントされます。

圧縮

画像を圧縮して保存します。圧縮率が高いほど画質は粗くなります。

ムービーの画質モード

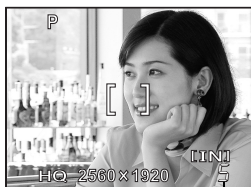
Motion-JPEG形式でムービーを記録します。

撮影可能枚数・撮影可能時間

静止画の場合

画質モード	画像サイズ	撮影可能枚数（枚）	
		内蔵メモリ	カード（32MBの場合）
SHQ	2560 × 1920	3	8
HQ	2560 × 1920	11	26
SQ1	1600 × 1200	21	49
SQ2	640 × 480	78	181

ムービーの場合

画質モード	画像サイズ	撮影可能時間（秒）	
		内蔵メモリ	カード（32MBの場合）
HQ	320 × 240（15コマ／秒）	47秒	110秒
SQ	160 × 120（15コマ／秒）	177秒	407秒

撮影可能枚数

撮影可能時間

ヒント

- 撮影した画像をパソコン上で見る場合に表示される画像の大きさは、パソコンのモニタ設定によって異なります。たとえば、1024 × 768ピクセルの画像サイズで撮影された画像は、パソコンのモニタ設定が1024 × 768のとき画像を等倍（100％）で表示すると、モニタ全体に表示されます。モニタ設定がそれ以上（1280 × 1024など）になると、モニタの一部にしか表示されません。

ご注意

- 撮影可能枚数、撮影可能時間はおおよその目安です。
- 撮影可能枚数は撮影対象やプリント予約の有無などによっても変わります。撮影や画像の消去を行っても枚数が変わらないことがあります。

画質モードを変更する

トップメニュー ▶［画質モード］ ☞「メニューの使い方」（P.16）

1 ［SHQ］［HQ］［SQ1］［SQ2］から選択し、OK/MENUを押します。

画質モード
SHQ 2560 × 1920
HQ 2560 × 1920
SQ1 1600 × 1200
SQ2 640 × 480
選択 ◆ ▲▼ 決定 ◆ OK

静止画の場合

ムービーの場合は、画質モードを［HQ］［SQ］から選択し、OK/MENUを押します。

ムービーの場合

画像の保存について

撮影した画像はカメラの内蔵メモリに記録されます。
また、別売のxD-ピクチャーカード（以降カードと呼びます）に記録することもできます。カードを使うと内蔵メモリより多くの画像を記録しておくことができます。旅行などで枚数をたくさん撮影するときは、カードを使用すると便利です。

●内蔵メモリについて

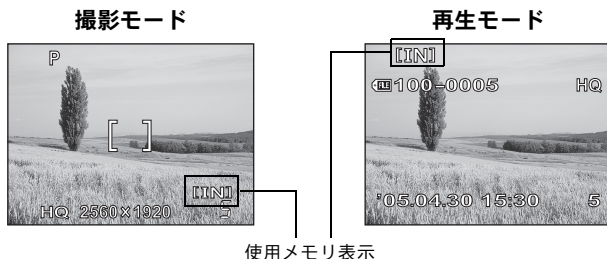
内蔵メモリは、撮影した画像を記録するためのフィルムにあたるものです。
内蔵メモリに記録された画像は自由に削除したり、パソコンで加工することができます。内蔵メモリはカメラから取り出したり、交換したりすることはできません。

内蔵メモリとカードの関係

内蔵メモリまたはカードのどちらを使用して撮影・再生しているか、液晶モニタの表示で確認できます。

撮影モード

再生モード

使用メモリ表示

液晶モニタ表示	撮影モードのとき	再生モードのとき
[IN]	内蔵メモリに記録されます。	内蔵メモリ内の画像を再生しています。
[xD]	カードに記録されます。	カード内の画像を再生しています。

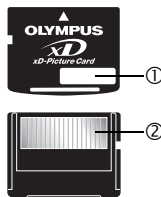
- 内蔵メモリとカードを同時に使用することはできません。
- カードが入っていると、内蔵メモリへ記録・再生はできません。内蔵メモリを使用するときは、カードを抜いてください。
- 内蔵メモリに記録された画像をカードにコピーすることができます。☞「内蔵メモリの画像をカードにコピーする（バックアップ）」（P.67）

別売のカードを使う

このカメラには別売のカードを入れることができます。

カードについて

カードとは、撮影した画像を記録するためのフィルムにあたるものです。
カードに記録された画像は自由に削除したり、パソコンで加工したりすることができます。
容量の大きなカードに交換すると記録できる枚数を増やすことができます。

① インデックスエリア
カードに保存されている内容がわかるように、ここに記入できます。
② 接触面（コンタクトエリア）
カメラの信号読み取り接点が接触する部分です。

使用できるカード

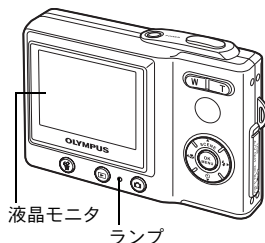
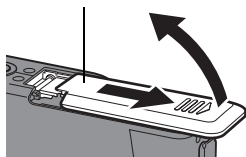
- xD-ピクチャーカード（16MB～1GB ）

ご注意

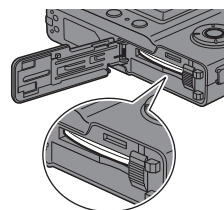
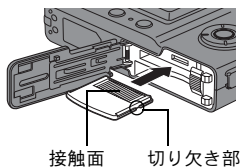
- オリンパス製以外の市販のカードや、パソコンなどの他の機器でフォーマットしたカードは、このカメラで認識できないことがあります。お使いになる前に、必ずこのカメラでフォーマットしてください。☞「フォーマット」（P.70）
- フォーマットや削除をしてもカード内のデータは完全には消去されません。廃棄する際は、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

カードを入れる

1 カメラの電源が入っていないことを確認します。

- 液晶モニタが消灯している。
- レンズが出ていない。
- ランプが消灯している。

2 電池／カードカバーを開けます。

●カードを入れる

3 カードの向きを図のように正しく合わせて入れます。

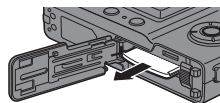
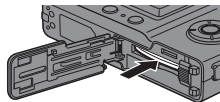
- カードが斜めに入らないようにまっすぐに差し込みます。
- カードを奥まで差し込むとカチッという音がして、ロックされます。
- カードの向きを間違えたり、斜めに入れた場合、接触面が破壊されたり、カードがカメラから抜けなくなることがあります。
- カードが奥まで挿入されていないと、カードに記録できなくなることがあります。

カードが正しく入った状態

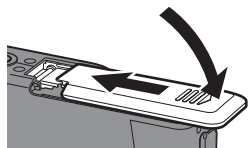
●カードを取り出す

3　カードを一度奥に向かって押しこんで、そのままゆっくり戻します。

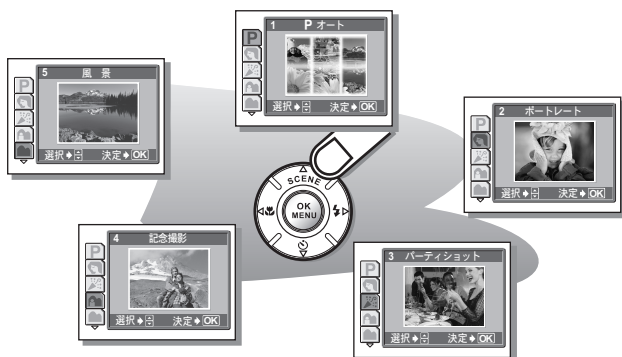
- カードが手前に出て止まります。

> **注意**
> カードを取り出す際にカードを押した指をすぐにはなしたり、指ではじくようにして押し出すと、カードが勢いよく飛び出すことがあります。

- カードをつまんで取り出します。

4　電池／カードカバーを閉じます。

> **注意**
> 電池／カードカバーを閉じるときは、指をはさまないように、ご注意ください。

基本的な撮影機能

3

カメラマンは被写体に合わせて、露出の調整やピントの合わせ方、フィルムの選択などを常に考慮した上でより最適な設定で撮影しています。
デジタルカメラで撮るあなたは難しい設定を覚える必要はありません。デジタルカメラには被写体にあわせた設定がすでに用意されています。風景、夜景、ポートレートなど、あなたが撮りたい！　と思うものに合わせた撮影シーンを選ぶだけで、最適な露出や色合いをカメラが設定してくれます。
さあ、あなたはシャッターボタンを押すだけです。

撮影シーンに合わせた撮影

撮りたいものに合わせて撮影シーンを選ぶ（SCENE）

カメラ内蔵の撮影シーンから撮影状況に合った設定を選択することができます。色合いや明るさ、シャッター速度などの設定が撮影シーンごとにあらかじめ決められていますので、シャッターボタンを押すだけの手軽な撮影ができます。

● SCENEの種類

P Pオート（プログラムオート）

通常の撮影に使用します。自然な色合いになるようにカメラが自動的に設定します。露出補正などその他の機能は、自由に設定できます。

ポートレート

人物撮影をするのに最適です。肌色の質感の再現を重視しています。

パーティショット

パーティなどで人物を撮影するのに最適です。背景の雰囲気もきれいに再現されます。画質モードは［SQ1］［SQ2］のみ設定できます。

記念撮影

人物と風景をいっしょに撮るのに最適です。近くの被写体と背景の両方にピントを合わせるように撮ります。空・緑・人物をきれいに撮ります。

風景

風景を撮るのに最適です。近景から遠景までピントが合うように写します。また、青や緑の色をよりきれいに再現するので、自然のなかでの撮影には効果的です。

スポーツ

スポーツなどの動きのある被写体を撮るのに最適です。すばやい動きのものでも、止まっているように撮影することができます。

夜景＆人物 ※

夜の景色と人物をいっしょに撮るのに最適です。夜景＆人物撮影時は、シャッター速度が遅くなりますので、カメラを三脚などで固定して撮影してください。

夜景 ※

夜の景色を撮るのに最適です。通常の撮影よりも遅いシャッター速度で撮影します。**P**オートで街灯が輝く街の夜景を撮影すると、明るさが不足するので光っている点だけの画像になってしまいます。夜景撮影では、街の様子も写し出します。夜景撮影時は、シャッター速度が遅くなりますので、カメラを三脚などで固定して撮影してください。

セルフポートレート

撮影者がカメラを持ち自分を撮影するのに最適です。ピントは近くに合うようになっているため、ズームは広角の位置で固定され、変更できません。

ムービー

ムービーを撮影します。音声も同時に記録されます。
☞「ムービー撮影」(P.46)

※ノイズリダクションが自動的に働きます。そのため撮影時間が通常の2倍になり、その間次の撮影はできません。

1 △SCENEを押します。

- 撮影シーンの設定画面が表示されます。
☞「ダイレクトボタンの使い方」(P.13)

2 撮影シーンを選択し、OK/MENU を押します。

- サンプル画像のあと、どのような撮影に適しているかが表示されます。

3 撮影します。

ヒント

- 各モードにより設定可能な機能は異なります。☞「撮影シーン別設定可能な機能」（P.130）

ご注意

- 各撮影シーンで画質モードやフラッシュの設定を変更しても、別の撮影シーンに切り替えるとそれぞれの初期設定に戻ります。

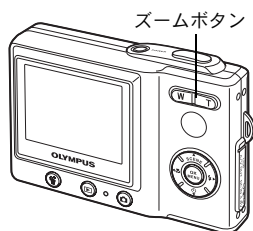
遠くのものを拡大して撮る

光学ズームとデジタルズームを使用して望遠の撮影ができます。光学ズームは、レンズの倍率を変えることによってCCDに拡大された像が写り、CCDの画素がすべて画像になります。デジタルズームは、CCDに写っている像の中心部分を切り出し、設定した画像サイズまで拡大します。小さいサイズを切り出して拡大するので、デジタルズームでの拡大率が大きくなるほど画像は粗くなります。

このカメラで可能なズームの倍率は以下のとおりです。

光学ズーム	3倍（35mmフィルムカメラ換算：35mm～105mm）
光学×デジタルズーム	最大約12倍

高倍率になるほど手ぶれが起こりやすくなりますのでご注意ください。

1 ズームボタンを押します。

広角：
ズームボタンのW側を押す

望遠：
ズームボタンのT側を押す

デジタルズームを使う

デジタルズームを使用する場合は、［デジタルズーム］を［オン］に設定します。

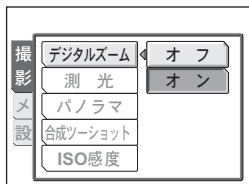
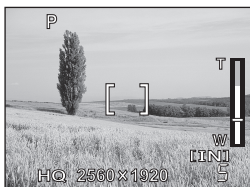
トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［撮影］▶［デジタルズーム］

☞「メニューの使い方」（P.16）

1 ［オン］を選択し、OK/MENU を押します。

2 ズームボタンのＴ側を押します。

光学ズーム

W T

デジタルズーム

ズームバーの白い部分が光学ズームの領域です。デジタルズームが設定されると、ズームバーに赤い領域が表示されます。光学ズームで最大までズームアップすると、デジタルズームになります。

ズームの拡大率によってカーソルが上下に移動します。
デジタルズームの領域に入るとカーソルがオレンジになります。

ご注意

- デジタルズームの領域で撮影すると、画像が粗くなることがあります。

小さなものを接近して撮る（マクロ）

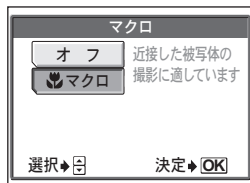
通常の撮影では、近接した被写体（10～60cm）にピントを合わせるのに時間がかかりますが、マクロモードにすると、近接撮影のピント合わせが早くなります。被写体に10cmまで接近して撮影できます（光学ズームをもっとも広角にした場合）。

マクロ

1 ◁を押します。

- マクロの設定画面が表示されます。
  「ダイレクトボタンの使い方」（P.13）

2 ［マクロ］を選択し、を押します。

3 撮影します。

ご注意

- フラッシュ使用時は影が目立ったり、適正な明るさにならないことがあります。

フラッシュ撮影

撮影状況や目的に合わせてフラッシュの設定を選びます。

フラッシュの到達距離
広角時：約0.2～3.6m
望遠時：約0.6～2.1m

オート発光（表示なし）

暗いときや逆光のとき、フラッシュが自動的に発光します。

赤目軽減（👁）

暗い場所でフラッシュを使って人物を撮影するとき、目が赤く写る現象を軽減します。本発光の前に数回の予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。

目が赤く写ります

ご注意

- 最初の予備発光からシャッターが切れるまで約1秒かかります。カメラをしっかり構えて動かさないでください。
- フラッシュを正面から見ていない場合や、予備発光を見ていない場合、距離が遠い場合などや個人差により、赤目軽減の効果が現れにくくなります。

強制発光（⚡）

フラッシュを必ず発光させます。木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときに使用します。

ご注意

- 非常に明るい状況下では、効果が現れにくくなることがあります。

発光禁止（🚫⚡）

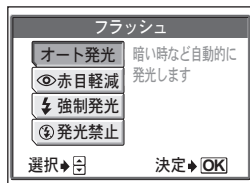
暗いところでも発光させたくないときに使用します。フラッシュを使用できない場所での撮影に使用します。フラッシュが届かない遠景・夕景を撮りたいときにも使用します。

ご注意

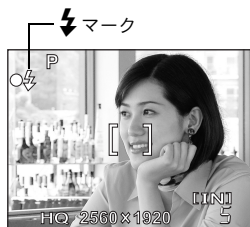
- 暗いところの撮影ではシャッター速度が長くなりますので、カメラぶれを防ぐため三脚のご使用をおすすめします。

1 ▷⚡を押します。

- フラッシュモードの設定画面が表示されます。
  ☞「ダイレクトボタンの使い方」（P.13）

2 フラッシュモードを選択し、OK/MENU を押します。

3 シャッターボタンを半押しします。

- フラッシュが発光するときは、⚡マークが点灯します（フラッシュ発光予告）。

4 シャッターボタンを全押しして、撮影します。

ヒント

⚡（フラッシュ充電）マークが点滅した
→ フラッシュ充電中です。⚡マークが消灯するまでお待ちください。

ご注意

- パノラマ撮影中は、フラッシュは使用できません。
- マクロ撮影でズームが W（広角）側にあるときは、特に画面内で光の量がムラになることがあります。必ず再生して画像を確認してください。

いろいろな撮影機能

4

スポーツ観戦や運動会で…
ムービー撮影で迫力いっぱいの映像を保存しましょう。

大自然でも観光地でも…
美しい山並みや壮大な建築物をパノラマ撮影 * でワイドに撮ってみましょう。

仲間が集まったら…
同窓会、ホームパーティなどのイベントでもセルフタイマーを使えば全員で集合写真を撮ることができます。

2 つの画像を一枚に…
2回続けて撮影した画像を1枚のツーショット画像に合成することができます。

* 別売のオリンパス製 xD- ピクチャーカードが必要です。

ムービー撮影

ムービーが撮影できます。音声も同時に記録されます。ムービーの撮影中は、被写体が動いても露出は常に正しく合いますが、ピントとズームは固定されますので、被写体との距離が変化するとピントが外れる場合があります。撮影したムービーはカメラで再生できます。

1 構図を決めます。

- 撮影可能時間が液晶モニタに表示されます。
- ズームボタンで被写体を拡大できます。

撮影可能時間

2 シャッターボタンを全押しして撮影を始めます。

- カメラ本体のランプがオレンジ色に点滅し、画像の記録が始まります。
- ムービー撮影中は 🎥 マークが赤く点灯します。

3 もう一度シャッターボタンを押して、撮影を終了します。

- 撮影可能時間が0になると、自動的に撮影を終了します。
- 内蔵メモリまたはカードに空き容量がある場合は、撮影可能時間（P.28）が表示され、次の撮影ができます。

ご注意

- デジタルズーム／フラッシュは使用できません。
- 撮影中、撮影可能時間が急激に減ることがあります。この場合は、このカメラで内蔵メモリまたはカードをフォーマットしてから使用してください。☞「フォーマット」（P.70）

長時間ムービー撮影をする場合のご注意

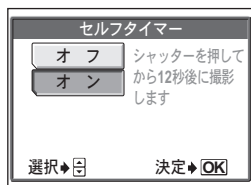
- 撮影中は、再度シャッターボタンを押してムービー撮影を終了しない限り、内蔵メモリまたはカードの空き容量がなくなるまで撮影が続きます。
- 一度のムービー撮影で内蔵メモリまたはカードの空き容量がなくなったときは、その画像を消去するか、パソコンにダウンロードしてから消去して、カードに空きを作ってください。

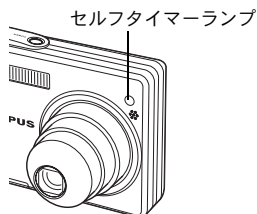
セルフタイマー撮影

セルフタイマーを使って撮影します。カメラを三脚にしっかり固定して撮影してください。記念写真などを撮るときに便利です。

1 **▽⏲を押します。**

- セルフタイマー撮影の設定画面が表示されます。
  ☞「ダイレクトボタンの使い方」(P.13)

2 **[オン] を選択し、OK/MENUを押します。**

3 **シャッターボタンを全押しして、撮影します。**

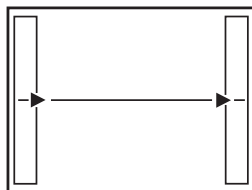
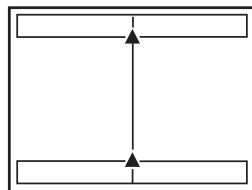
- ピントと露出はシャッターボタンを半押しした時点で固定されます。
- セルフタイマーランプが約 10 秒間点灯し、さらに約2秒間点滅した後、シャッターが切れます。
- ムービー撮影の場合、再度シャッターボタンを全押しして、撮影を終了してください。
- 作動中のセルフタイマーを中止するには、▽を押します。
- セルフタイマーモードは、一回の撮影が終わると自動的に解除されます。

パノラマ撮影

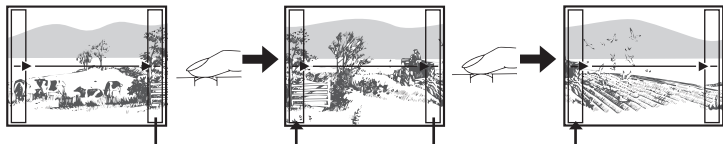
当社製のxD-ピクチャーカードを使うと、パノラマ撮影が簡単に楽しめます。被写体の端が重なるようにして撮影した何枚かの画像を、OLYMPUS Master（付属のCD-ROMに収録）でつなぎ合わせ、1枚のパノラマ合成画像を作成することができます。

トップメニュー ▶ [モードメニュー] ▶ [撮影] ▶ [パノラマ]

☞「メニューの使い方」（P.16）

1 十字ボタンでつなげる方向を指定します。

▷ ：次の画像を右につなげます。
◁ ：次の画像を左につなげます。
△ ：次の画像を上につなげます。
▽ ：次の画像を下につなげます。

左から右へ画像をつなぐ撮影をする場合

下から上へ画像をつなぐ撮影をする場合

2 被写体の端が重なるように撮影します。

パノラマ撮影時には、位置合わせのための前に撮影した画像は残りません。液晶モニタに表示される枠を目安に画像の位置を覚えておき、枠の中に前に撮影した画像の端が重なるように構図を設定してください。

- ピント・露出・ホワイトバランスなどは、1枚目で決定されます。1枚目に太陽などの光の強い被写体を入れた撮影などをしないでください。
- 1枚目を撮影した後は、ズーム操作はできません。
- 最大10枚までパノラマ撮影が可能です。
- 10 枚撮り終わると警告マーク が表示されます。

3 パノラマ撮影を終了するには、OK/MENUを押します。

ご注意

- カードがカメラに入っていないときはパノラマ撮影はできません。また、当社製のカード以外でパノラマ撮影はできません。
- パノラマ撮影中はフラッシュは使用できません。
- パノラマ合成はカメラ本体ではできません。パノラマ合成画像を作成する場合は、OLYMPUS Masterをご使用ください。

合成ツーショット撮影

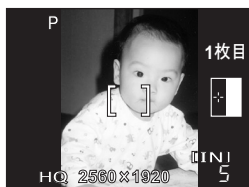
2回続けて撮影した画像を合成して、1枚の画像として保存します。別々の被写体を1枚の画像にして楽しむことができます。

再生時の画面

トップメニュー ▶ [モードメニュー] ▶ [撮影] ▶ [合成ツーショット]

☞「メニューの使い方」(P.16)

1　液晶モニタを見ながら 1 枚目を撮影します。

- 撮影した被写体は合成時には左側に配置されます。

2　続けて 2 枚目を撮影します。

- 撮影した被写体は合成時には右側に配置されます。
- 作成中を示すバーが表示され、画像が保存された後、モードメニューに戻ります。

撮影時の画像

ご注意

- 合成ツーショット撮影中は、パノラマ撮影は使用できません。
- 1枚撮影後、合成ツーショットを中止したいときは(OK/MENU)を押してください。1枚目に撮影した画像は記録されません。
- 1 枚撮影後にカメラの電源を切ったときは、1 枚目に撮影した画像は記録されません。

画像の明るさを変える（露出補正）

露出を手動で微調整します。1/3EV刻みで±2.0EVの範囲で設定できます。露出を補正した結果は液晶モニタで確認できます。

トップメニュー ▶［露出補正］ ☞「メニューの使い方」（P.16）

1 △▽を押して調整し、OK/MENUを押します。

- プラス［+］で明るく、マイナス［−］で暗くなります。

2 撮影します。

ヒント

- 通常、白い被写体（雪など）を撮影すると実際より暗く写ってしまいますが、+に補正すると見たままの白を表現することができます。黒い被写体を撮影するときは、逆に−に補正すると効果的です。
- 撮影する被写体によっては、カメラが自動的に設定した露出を補正したほうがよいときがあります。

ご注意

- フラッシュを使用すると意図した明るさ（露出）で撮影できないことがあります。
- 撮るものの周囲が極端に明るいときや極端に暗いときは、露出補正で補正しきれないときがあります。

画像の色合いを調整する（ホワイトバランス）

被写体は光源によって色が変わります。たとえば、白い紙に晴天時の太陽があたっているとき、夕日があたっているとき、電球の灯りがあたっているときでは、それぞれの白が異なります。ホワイトバランスを調整することにより、このような光源による微妙な色の違いを見たままの色に表現することができます。

オート	光源によらず、自然な色合いで写るよう自動的に調整します。
晴天（☼）	晴れた屋外で自然な色に写ります。
曇天（☁）	曇った屋外で自然な色に写ります。
電球（電球マーク）	電球の灯りで自然な色に写ります。
蛍光灯（蛍光灯マーク）	蛍光灯の灯りで自然な色に写ります。

トップメニュー ▶［ホワイトバランス］

☞「メニューの使い方」（P.16）

1 ホワイトバランスを選択し、(OK/MENU) を押します。

ヒント

- 実際の光源とは異なるホワイトバランスを選択し、その設定を液晶モニタで確認すると、様々な色調が楽しめます。

ご注意

- 撮影シーンを選んで撮影する場合、シーンに応じてホワイトバランスは自動的に設定されます。

被写体と背景の明るさが異なるとき（測光）

被写体の明るさを測るには、以下の2通りの方法があります。

中央重点測光　画面の中央部に重点をおいた広い範囲を測光し、露出を決定します。周辺部の明るさを影響させたくないときに使用します。

スポット測光　AFターゲットマークの範囲を測光し、露出を決定します。逆光などで被写体が暗くなるときに背景の光などに影響されることなく、被写体を適正露出で撮影できます。

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［撮影］▶［測光］

☞「メニューの使い方」（P.16）

1　［中央重点］または［スポット］を選択し、OK/MENUを押します。

2　撮影します。

明るさが足りない場所で撮る（ISO感度）

ISO感度は数値が大きいほど感度が高く、より暗いところ（光量が少ないところ）での撮影が可能になりますが、感度が高くなるにつれ電気的なノイズが増えて画像が粗くなります。

オート	被写体の条件に合わせて自動的に感度が変わります。
64/100/200/320	感度を低くすると、日中の撮影に最適でシャープな画像を撮ることができます。

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［撮影］▶［ISO感度］

☞「メニューの使い方」（P.16）

1 ［オート］または［64］［100］［200］［320］から選択し、OK/MENUを押します。

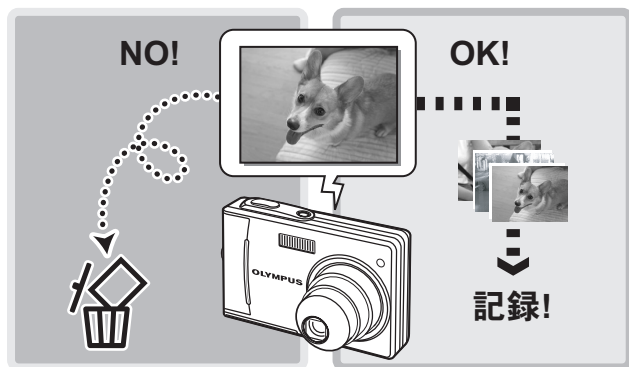
ご注意

- ISO感度は銀塩写真のフィルムを基準に設定されていますが、数値は目安です。
- ISO感度がオートに設定されているとき、暗いところでフラッシュを使わずに撮影すると、シャッター速度が遅くなります。この場合、手ぶれを防ぐため、自動的に感度が上がります。
- ISO感度がオートに設定されているとき、被写体が遠くフラッシュ光が届かない場合、自動的に感度が上がります。

再生

5

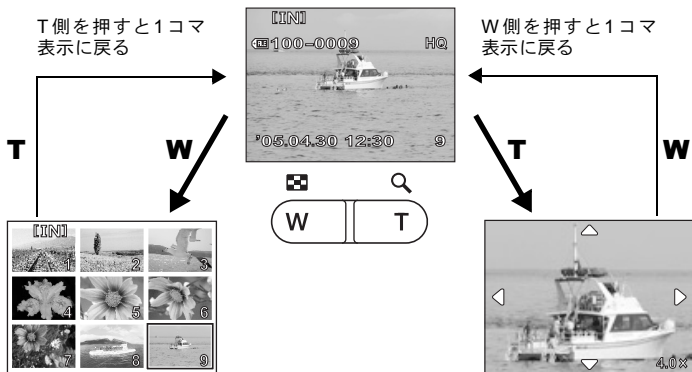
フィルムを使うカメラでは、撮影した写真は現像するまで見ることができません。できあがった写真を見て失敗作！とがっかりしたことはありませんか？　ボケた風景写真や目をつぶってしまった写真。ちゃんと撮れたか自信がなくて何度も同じような写真を撮ってしまったり。これでは、大切な思い出を安心して記録することができませんね。
デジタルカメラではどうでしょう。デジタルカメラなら撮影後すぐに再生できます。シャッターボタンを押したら、その場で撮った画像を確認しましょう。うまく撮れなかったら、その場で消してしまえばよいのです。さあ、失敗を恐れず、どんどんシャッターボタンを押しましょう！

静止画の再生

カードを入れているときは、カードの画像が再生されます。内蔵メモリの画像を再生するときは、カードを抜いてください。

1 ▶を押します。

- 液晶モニタに最後に撮影した画像が表示されます（1コマ再生）。
- 十字ボタンで見たい画像を切り換えることができます。

2 ズームボタンのT側またはW側を押します。

- 画像を拡大して表示（クローズアップ再生）したり、複数の画像を一覧表示（インデックス再生）したりできます。

インデックス再生

- インデックス再生中、十字ボタンで画像を選択します。
- 表示するコマ数を選択できます。☞「インデックス分割数」（P.57）

クローズアップ再生

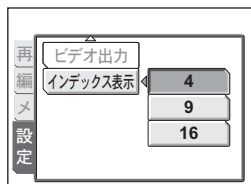
- T側を押すごとに5倍まで拡大表示されます。
- クローズアップ再生中に十字ボタンを押すと、その方向に画像がスクロールします。
- 拡大した状態で画像を保存することはできません。
- ムービーはクローズアップ再生できません。

インデックス分割数

インデックス再生のコマ数を4コマ、9コマ、16コマから選択します。

トップメニュー ▶ [モードメニュー] ▶ [設定] ▶ [インデックス表示]

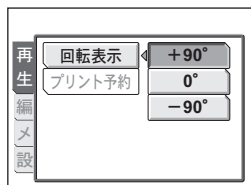
☞「メニューの使い方」(P.16)

1 **[4] [9] [16] から選択し、OK/MENU を押します。**

回転再生

カメラを縦に構えて撮影した画像は、横向きに表示されます。このような横向きの画像を回転して縦向きに表示します。反時計方向に90度、時計方向に90度の回転ができます。

トップメニュー ▶ [モードメニュー] ▶ [再生] ▶ [回転表示]

☞「メニューの使い方」(P.16)

1 **[+90°] [0°] [-90°] から選択し、OK/MENU を押します。**

+90°　0°　-90°

ご注意

- 次の画像は回転再生できません。
  ムービー／プロテクトされた画像／パソコンで編集した画像／他のカメラで撮影した画像
- 電源を切っても、画像が回転された状態は記録されます。

スライドショー

内蔵メモリまたはカードに記録されている静止画像を1枚ずつ自動的に再生します。ムービーコマは、最初のフレームのみが静止画と同じように再生されます。
静止画を選択してトップメニューを表示してください。

トップメニュー ▶［スライドショー］ ☞「メニューの使い方」（P.16）

- スライドショーがスタートします。
- OKを押すと、スライドショーが終了します。OKを押すまでスライドショーが繰り返されます。

ご注意

- 長時間スライドショーを行う場合は、ACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。電池をお使いの場合、30分経過するとスリープモード（待機状態）、または電源が切れ、自動的にスライドショーが終了します。

ムービーの再生

ムービーを再生します。早送りやコマ送り再生をすることができます。
🎥マークのついた画像を選択してトップメニューを表示してください。

トップメニュー ▶［ムービープレイ］ ☞「メニューの使い方」（P.16）

- ムービーが再生されます。再生が終わるとムービーの先頭に戻り、ムービープレイメニューが表示されます。
- ［再スタート］を選択すると、もう一度再生します。［終了］を選択すると、再生モードに戻ります。

●ムービー再生中の操作

▷：押し続けると早送りします。
◁：逆再生し、押し続けると逆再生の速度が速くなります。
OK/MENU：一時停止し、コマ送りの状態になります。

再生時間/録画時間

●コマ送りの操作

△：ムービーの先頭のコマを表示します。
▽：ムービーの末尾のコマを表示します。
▷：ムービーのコマが進みます。押し続けると再生します。
◁：ムービーのコマが戻ります。押し続けると逆再生します。
OK/MENU：ムービープレイメニューが表示されます。

！ ご注意

- カメラ本体のランプがオレンジ色に点滅しているときは、内蔵メモリまたはカードからカメラへの画像の読み出しが行われています。画像の読み出しには時間がかかることがあります。カメラ本体のランプがオレンジ色に点滅しているときは、絶対に電池／カードカバーを開けないでください。撮影した画像が破壊されるだけでなく、内蔵メモリまたはカードが破壊され使用できなくなる場合があります。
- このカメラで音声を再生することはできません。画像をパソコンにダウンロードするか、テレビに接続して再生してください。

静止画の編集（モノクロ作成／セピア作成／リサイズ）

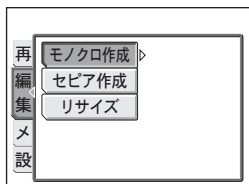
撮影した静止画を編集して別の画像として保存します。以下の編集を行うことができます。

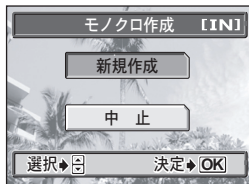
モノクロ作成　白黒の別の画像として保存します。
セピア作成　セピア色の別の画像として保存します。
リサイズ　画像サイズを 640 × 480、または 320 × 240 に変更し、別の画像として保存します。

編集する画像を選択してトップメニューを表示してください。

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［編集］

☞「メニューの使い方」（P.16）

1　**［モノクロ作成］［セピア作成］［リサイズ］から選択し、▷を押します。**

2　• **［モノクロ作成］［セピア作成］を選択した場合**

［新規作成］を選択し、OK/MENUを押します。

［モノクロ作成］の場合

• **［リサイズ］を選択した場合**

画像サイズを選択し、OK/MENUを押します。

• 作成中を示すバーが表示され、画像が保存された後、再生モードに戻ります。

ご注意

- 次の場合は［モノクロ作成］［セピア作成］［リサイズ］はできません。
  内蔵メモリまたはカードの空き容量が不足している／ムービー／パソコンで編集した画像／他のカメラで撮影した画像

インデックス作成

作成したムービーの内容が一目でわかるようにムービーを9分割して画面に表示し、1つの画像として保存（インデックス作成）します。

🎥マークのついた画像を選択してトップメニューを表示してください。

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［編集］▶［インデックス作成］

☞「メニューの使い方」（P.16）

- 内蔵メモリまたはカードの空き容量が不足するときは警告画面が表示され、［編集］画面に戻ります。

1 インデックスの先頭のコマを選択し、OK/MENUを押します。

△ ：ムービーの先頭のコマへジャンプします。

▽ ：ムービーの末尾のコマへジャンプします。

▷ ：コマが進みます。押し続けるとムービーを再生します。

◁ ：コマが戻ります。押し続けるとムービーを逆再生します。

2 手順1と同様にインデックスの後尾のコマを選択し、OK/MENUを押します。

3 ［決定］を選択し、㊙を押します。

- 作成中を示すバーが表示され、再生モードに戻ります。作成された画像は新規の画像として保存されます。
- コマ指定をやり直す場合は［再設定］を選択して㊙を押します。手順1からやり直します。
- インデックス作成をやめるときは［中止］を選択して㊙を押してください。

ヒント

- インデックス作成された画像は、ムービー撮影時の画質とは異なる静止画として保存されます。

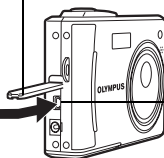
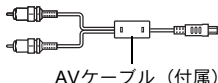
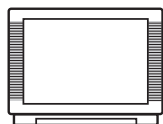
ムービー撮影時の画質モード	インデックス画像の画質
HQ	SQ2（1024 × 768ピクセル）
SQ	SQ2（640 × 480ピクセル）

ご注意

- ムービーの記録時間により、自動的に抜き出される画像の間隔は異なります。
- インデックス作成されるコマ数は、9コマです。

テレビ再生

付属のAVケーブルでテレビに接続して画像を再生します。静止画とムービーの両方の再生ができます。ムービー画像といっしょに記録されている音声も同時に再生されます。

1 カメラとテレビの電源を切り、付属のAVケーブルでカメラのマルチコネクタとテレビのビデオ入力端子を接続します。

2 テレビの電源を入れて［ビデオ入力］に設定します。

- ビデオ入力の設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

3 ▶を押して、カメラの電源を入れます。

- 最後に撮影した画像がテレビに表示されますので、十字ボタンで表示する画像を選択します。

ヒント

- テレビで再生する場合は、ACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。
- クローズアップ再生、インデックス再生、スライドショー等の再生機能が可能です。

ご注意

- カメラのビデオ信号が、お使いのテレビの映像信号に合っていることを確認してください。☞「ビデオ出力」（P.65）
- AVケーブルを接続すると、カメラの液晶モニタの表示は消えます。
- テレビとの接続には必ず付属のAVケーブルをご使用ください。
- テレビにより画像が画面中央からずれることがあります。

ビデオ出力

お使いのテレビの映像信号に合わせて、NTSCまたはPALを選択します。海外でテレビに接続して再生するときに、設定を合わせてください。［ビデオ出力］はAVケーブルを接続する前に設定を変更してください。間違った映像（ビデオ）信号を選択すると、テレビで画像が正しく再生できません。

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［設定］▶［ビデオ出力］

☞「メニューの使い方」（P.16）

1　［NTSC］または［PAL］を選択し、OK/MENU を押します。

ヒント

主な国と地域のテレビ映像信号

カメラをテレビに接続する前に、あらかじめご確認ください。

NTSC　日本、北米、台湾、韓国

PAL　ヨーロッパ諸国、中国、アジア地域

画像の詳細情報を表示する（情報表示）

撮影した画像の詳細情報を約3秒間表示します。表示される情報の内容については、「液晶モニタの表示」（P.133）を参照してください。

トップメニュー ▶［情報表示］ ☞「メニューの使い方」（P.16）

- トップメニューから［情報表示］を選択するたびにオン／オフが切り換わります。

情報表示オンの時

情報表示オフの時

ご注意

- このカメラ以外で撮影した画像は、［情報表示］をオンに設定しても日時、コマ番号、電池残量表示以外は表示されません。

画像を保護する

残しておきたい大切な画像は、プロテクト（保護）を設定してください。プロテクトされた画像は1コマ消去／全コマ消去で消去できませんが、フォーマットを行うとすべて消去されます。

プロテクトしたい画像を選択してトップメニューを表示してください。

トップメニュー ▶［プロテクト］ ☞「メニューの使い方」（P.16）

- トップメニューから［プロテクト］を選択するたびにプロテクトのオン／オフが切り換わります。

プロテクトされると表示されます。

内蔵メモリの画像をカードにコピーする（バックアップ）

内蔵メモリに記録したすべての画像データをカードにコピー（バックアップ）します。バックアップをしても内蔵メモリ内の画像は消去されません。

バックアップ機能を使用するには、別売のカードが必要です。カードをカメラに入れてから操作してください。

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［カード］▶［バックアップ］

☞「メニューの使い方」（P.16）

1 ［バックアップ］を選択し、OK/MENUを押します。

- 内蔵メモリのすべての画像データがカードにコピーされます。

ご注意

- カードの容量が不足しているときは［カード残量がありません］と表示され、バックアップは行われません。
- ▭ マークが点滅しているときは、電池の残量が不足しているため、バックアップはできません。
- バックアップ中に電池残量がなくなると画像データにトラブルが生じることがあります。ACアダプタのご使用をおすすめします。
- バックアップ中は絶対に電池／カードカバーを開けたり、電池を取り外したりしないでください。また、ACアダプタの抜き差しをしないでください。内蔵メモリまたはカードが正常に動作しなくなるおそれがあります。

画像を消去する

撮影した画像を消去します。再生している1コマのみを消去する1コマ消去と内蔵メモリまたはカード内のすべての画像を消去する全コマ消去があります。

- 内蔵メモリ内の画像を消去したいときは、カードをカメラに入れないでください。
- カード内の画像を消去したいときは、あらかじめカードをカメラに入れてください。

ご注意

- 消去したい画像がプロテクトされている場合は消去できません。画像のプロテクトを解除してから消去してください。
- 消去した画像は元に戻せません。消去する前に、大切なデータを消さないように十分に注意してください。☞「画像を保護する」（P.66）

1コマ消去

5 再生

1 **消去したい画像を選択し、ボタンを押します。**

- ［1コマ消去］画面が表示されます。☞「ダイレクトボタンの使い方」（P.13）、「静止画の再生」（P.56）

2 **［消去］を選択し、を押します。**

- 画像が消去され、メニューが終了します。

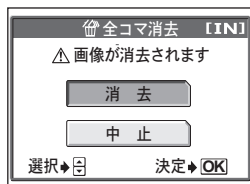
全コマ消去

内蔵メモリまたはカード内のすべての画像を消去します。

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［メモリ（カード）］▶［全コマ消去］

☞「メニューの使い方」（P.16）

1 ［消去］を選択し、OK/MENU を押します。

- すべての画像が消去されます。

フォーマット

内蔵メモリまたはカードをフォーマットします。フォーマットとは、カードをこのカメラで書き込みできるように初期化することです。

- 内蔵メモリをフォーマットする場合は、カードを入れないでください。
- カードをフォーマットする場合は、あらかじめカードを入れてください。
- 当社製以外のカードやパソコンでフォーマットしたカードを使用する場合は、必ずこのカメラでフォーマットしてください。

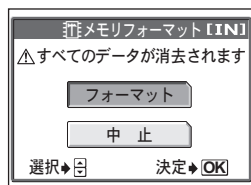
フォーマットするとプロテクトをかけた画像を含むすべてのデータは消去されます。すでに使用している内蔵メモリやカードをフォーマットするときは大切なデータが記録されていないことを確認してください。

トップメニュー ▶ [モードメニュー] ▶ [メモリ（カード)] ▶ [メモリフォーマット（カードフォーマット)]

☞「メニューの使い方」(P.16)

5 再生

1 [フォーマット] を選択し、OK/MENUを押します。

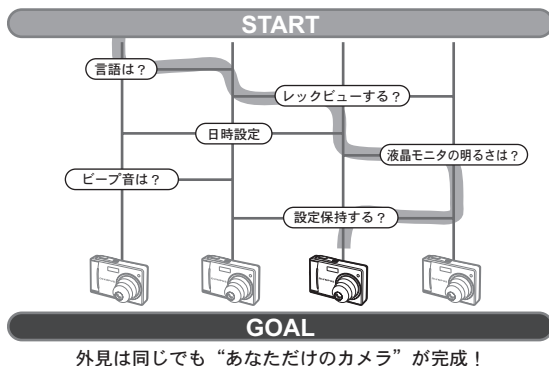
- 画面に処理中のバーが表示され、フォーマットされます。

ご注意

- フォーマット中は絶対に次のことをしないでください。カードが使用できなくなるおそれがあります。
  電池／カードカバーを開ける／ACアダプタの抜き差しをする（カメラに電池が入っている、いないにかかわらず絶対にしないでください。）

設定

6

撮ってすぐ見る、これがデジタルカメラの大きな特徴であり、便利なところです。
でも、デジタルカメラの便利さはそれだけではありません。
たとえば、屋外、室内などカメラを使用する場所に合わせて、液晶モニタの明るさを調整したり、カメラを使用する状況に合わせて、操作音／警告音の音量を大きくしたり、消したりすることができます。
海外の友人が使うときは、言語を切り換えてあげてください。
これらの機能を活用するかどうかで、ぐーんと使い勝手が違ってくるはず。ぜひ試してみてください。

外見は同じでも“あなただけのカメラ”が完成！

カメラの設定を記憶する（設定保持）

電源を切った後も、変更した設定値を保持するかどうか選択します。設定保持される機能については下記の表を参照してください。
設定保持の［しない］［する］の設定は、すべてのモードで共通です。撮影モード、再生モードにかかわらず、適用されます。

しない　電源を切ると変更した設定値は初期設定に戻ります。
例：［画質モード］をSQ1に変更しても［設定保持］が［しない］に設定されていると、電源を入れ直したときに初期設定のHQに戻ります。

する　電源を切っても変更した設定値は保持されます。
ただし［Pオート］［ムービー］以外の各撮影シーンで画質モードやフラッシュの設定を変更しても、変更した設定値は保持されません。

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［設定］▶［設定保持］

☞「メニューの使い方」（P.16）

1 ［する］または［しない］を選択し、OK/MENUを押します。

ご注意

- モードメニューの設定タブの機能（設定保持、言語など）は、設定保持が［しない］に設定されていても初期設定に戻りません。

●［設定保持：しない］で設定が元に戻る機能とその設定

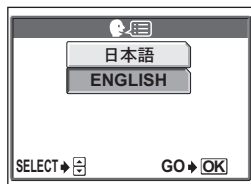
機能名	初期設定	参照頁
露出補正	0.0	P.51
フラッシュ	オート発光	P.42
マクロ	オフ	P.41
測光	中央重点	P.53
ISO感度	オート	P.54
デジタルズーム	オフ	P.40
画質モード	HQ	P.27
ホワイトバランス	オート	P.52
情報表示	オフ	P.66

表示する言語を切り換える

液晶モニタのメニュー表示やエラーメッセージを日本語でなく、他の言語にすることができます。日本語に戻すこともできます。

トップメニュー ▶ [モードメニュー] ▶ [設定] ▶ [ ]

☞「メニューの使い方」(P.16)

1 表示したい言語を選択し、OK/MENU を押します。

ヒント

表示する言語を増やしたい

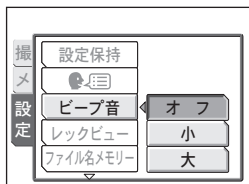
→ OLYMPUS Masterを使って、表示する言語を増やすことができます。詳しくはOLYMPUS Masterのヘルプをご覧ください。

操作音／警告音を設定する（ビープ音）

カメラが発する音の音量を［小］［大］から選択できます。音を消す場合は［オフ］に設定してください。

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［設定］▶［ビープ音］

☞「メニューの使い方」（P.16）

1 ［オフ］［小］［大］から選択し、OK/MENU を押します。

撮影後すぐに画像を確認する（レックビュー）

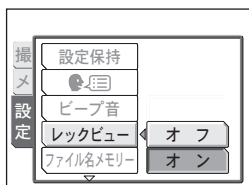
撮影した直後に画像を液晶モニタに表示するかどうか設定します。

オン 撮影した画像の記録中に表示します。撮影した画像の簡単なチェックに便利です。レックビュー中でもすぐに次の撮影に入れます。

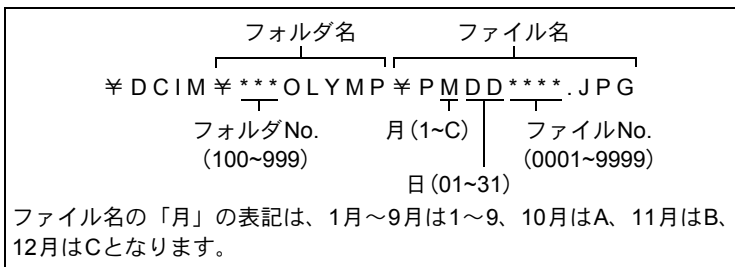
オフ 記録中の画像は表示されません。次の撮影のために被写体を追いながら撮影する場合に便利です。

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［設定］▶［レックビュー］

☞「メニューの使い方」（P.16）

1 ［オフ］または［オン］を選択し、OK/MENU を押します。

ファイル名をリセットする（ファイル名メモリー）

記録される画像には、ファイル名とそのファイルが入るフォルダ名がカメラ内部で自動的に生成されます。ファイル名とフォルダ名はそれぞれファイル№（0001~9999）、フォルダ№（100~999）を含み、以下のように付けられます。

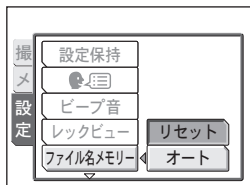
ファイル名の「月」の表記は、1月～9月は1～9、10月はA、11月はB、12月はCとなります。

フォルダ№とファイル№の付け方は、［リセット］［オート］の2種類あります。パソコンで画像を取り込む際に、扱いやすい方をお選びください。

リセット　カードを入れ換えたときにフォルダ№、ファイル№が両方ともリセットされます。フォルダ№は「№100」に、ファイル№は「№0001」に戻ります。カード別に画像を管理するときに便利です。

オート　カードを入れ換えても、フォルダ№、ファイル№とも前のカードから継続されます。複数のカードを管理するときでも、ファイル名が重複することがありません。すべての画像を通し番号で管理するのに便利です。

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［設定］▶［ファイル名メモリー］

☞「メニューの使い方」（P.16）

1 ［リセット］または［オート］を選択し、OKを押します。

ご注意

- ファイル№が9999を超えるとファイル№は0001に戻り、フォルダ№が変わります。
- 最大のフォルダ№999、ファイル№9999に達すると、カードに残量があっても撮影可能枚数が0になり撮影できません。フォーマットするか、新しいカードに取り換えてください。大切な画像はフォーマットする前にパソコンに取り込んでください。

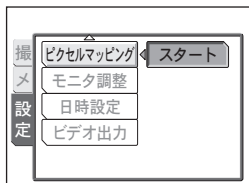
画像処理機能をチェックする（ピクセルマッピング）

CCDと画像処理機能のチェックを同時に行います。この機能は、すでに工場出荷時に調整済みのため、お買い上げ後すぐに調整する必要はありません。調整は、年に一度を目安とし、最適な効果を得るため、撮影・再生直後より1分以上時間を空けて実行します。

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［設定］▶［ピクセルマッピング］

☞「メニューの使い方」（P.16）

1　［スタート］が表示されたら、OKを押します。

- ピクセルマッピング実行中のバーが表示されます。終了するとモードメニューに戻ります。

ご注意

- 処理中にカメラの電源を切ってしまった場合は、必ずもう一度このチェックを行ってください。

6 設定

液晶モニタの明るさを調整する（モニタ調整）

液晶モニタの明るさを見やすいように調整します。

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［設定］▶［モニタ調整］

☞「メニューの使い方」（P.16）

1　液晶モニタを見ながら明るさを調整し、設定が決まったらOKを押します。

- △を押すと明るくなり、▽を押すと暗くなります。

日付・時刻を設定する（日時設定）

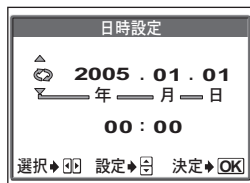
日付・時刻を設定します。日時の情報は画像とともに記録され、日時の情報をもとにファイル名が付けられます。

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［設定］▶［日時設定］

☞「メニューの使い方」（P.16）

1 △▽を押して日付の順序を［年-月-日］［月-日-年］［日-月-年］から選択し、▷を押します。

- 年の設定に移動します。
- 以下の画面は［年-月-日］に設定した場合です。

日時設定
2005 . 01 . 01
年 月 日
00 : 00
選択 設定 決定 OK

2 △▽を押して［年］を設定し、▷で次の項にすすみます。

- ◁を押すと、1つ前の項目に戻ります。
- ［年］の上2桁は固定されています。

3 同様の操作を繰り返し、時刻まで入力します。

- カメラの時間表示は 24 時間表示です。午後2時は14:00と表示されます。

4 ⓞを押します。

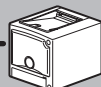
- 0秒の時報に合わせてⓞを押すと、正確に時間を合わせられます。

ご注意

- 電池を抜いた状態で約1日放置すると、日時の設定は初期設定に戻ります（当社試験条件による）。また、カメラに電池を入れていた時間が短い場合は、これよりも早く日時の設定が解除されます。大切なものを撮る前には、日時の設定が正しいことを確認してください。
- 日時設定が解除されると、カメラの電源を入れたときに液晶モニタに警告画面が表示されます。☞「エラーコード」（P.110）

プリントする

7

撮影した画像をプリントしましょう。
お店でプリントする方法と、自分でプリンタを使ってプリントする方法があります。
お店でプリントする時は、カードにプリント予約をしておくと便利です。プリント予約は、あらかじめプリントする画像や枚数をカードに設定しておく方法です。
自分でプリントする時は、デジタルカメラを専用プリンタに直接接続して印刷する方法（ダイレクトプリント）と、パソコンに取り込んでパソコンに接続されたプリンタで印刷する方法があります。

ダイレクトプリント（PictBridge）

ダイレクトプリントについて

カメラをPictBridge対応プリンタにUSBケーブルで接続して、撮影した画像を直接プリントすることができます。プリントする画像の選択やプリント枚数の設定は、カメラとプリンタを接続した状態で、カメラの液晶モニタを見ながら操作します。また、プリント予約の設定内容を使って、プリントすることもできます。☞「プリント予約（DPOF）」（P.87）
お使いのプリンタがPictBridgeに対応しているかどうかは、プリンタの取扱説明書でお確かめください。

PictBridgeとは…異なるメーカーのプリンタとデジタルカメラを接続し、画像を直接プリントすることを目的とした規格です。

標準設定とは…PictBridge対応プリンタには、それぞれプリント条件の標準設定があります。各設定画面（P.81～85）で［標準設定］を選択すると、この設定にしたがってプリントされます。標準設定の内容については、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧になるか、プリンタメーカーにおたずねください。

ヒント

- プリントできる用紙の種類、用紙やインクカセットの取り付け方については、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 電源にはACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。電池をご使用の場合は、十分に充電された電池をお使いください。プリンタと通信中にカメラが動作を停止すると、プリンタが誤動作したり、画像データを壊すことがあります。
- ムービーはプリントできません。
- USB ケーブルでプリンタと接続しているときは、カメラはスリープモード（待機状態）になりません。

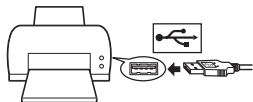
プリントモードや各設定の内容について

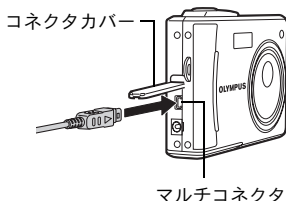
使用できるプリントモード、用紙サイズなどの設定項目は、お使いのプリンタによって選択できる項目が異なる場合があります。詳しくは、プリンタの取扱説明書をご覧ください。

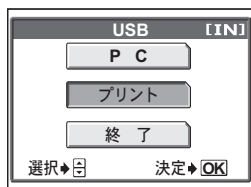
プリントする

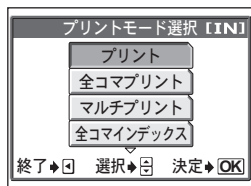
付属のUSBケーブルで、カメラをPictBridge対応プリンタに接続します。
最も基本的なプリント方法で1枚プリントしてみましょう。選択した画像が1枚、お使いのプリンタの標準設定でプリントされます。日付やファイル名はプリントされません。

1 プリンタの電源を入れて、プリンタのUSBポートに、カメラに付属のUSBケーブルを差し込みます。

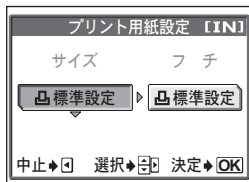
- プリンタの電源の入れ方およびUSB端子の位置は、お使いのプリンタの取扱説明書でご確認ください。

2 付属の USB ケーブルをカメラのマルチコネクタに差し込みます。

- 自動的にカメラの電源が入ります。
- カメラの液晶モニタが点灯し、USBケーブルの接続先の選択画面が表示されます。

3 ［プリント］を選択し、OKを押します。

- ［しばらくお待ちください］と表示されたあと、カメラとプリンタが接続され、カメラの液晶モニタにプリントモード選択画面が表示されます。プリントの設定はカメラの液晶モニタを見ながら操作します。

4 ［プリント］を選択し、OKを押します。

- プリント用紙設定画面が表示されます。

7 プリントする

5 サイズ、フチの設定は何も変更せずに、OK/MENUを押します。

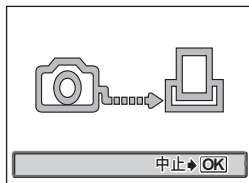
- プリント用紙設定画面が表示されないときは、手順6に進みます。

6 ◁▷ を押してプリントする画像を選択し、OK/MENUを押します。

- プリント画面が表示されます。

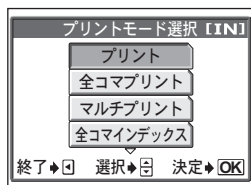
7 ［プリント］を選択し、OK/MENUを押します。

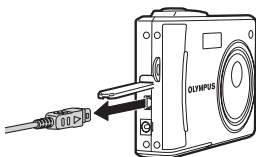
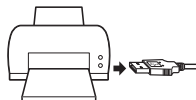
- プリントが開始されます。
- プリントが終了するとプリントモード選択画面が表示されます。

●プリントを途中で中止するには

プリンタへデータを転送中にOK/MENUを押すと、プリント続行、または中止の選択画面が表示されます。プリントを中止するには、［中止］を選択し、OK/MENUを押します。

データ転送中の画面

8 プリントモード選択画面で、◁を押します。

• メッセージが表示されます。

9 カメラからUSBケーブルを抜きます。

• カメラの電源が切れます。

10 プリンタからUSBケーブルを抜きます。

ご注意

• USB モードが［PC］に設定されていると、手順4でプリントモード選択画面は表示されません。USBケーブルを抜いて、手順1からやり直してください。

その他のプリントモードとプリント設定

基本的なプリント方法以外に、さまざまなプリントモードがあります。また同一のプリントモードでも用紙サイズやフチの有無を設定することもできます。
以下の画面が表示されたら操作ガイドにしたがって操作してください。

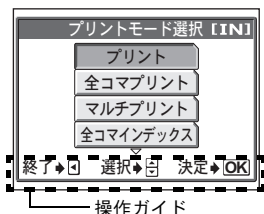
プリントモードを選ぶ

プリント　選択した画像をプリントします。

全コマプリント　内蔵メモリまたはカードの中の全画像をプリントします。

マルチプリント　1枚の用紙に同じ画像を複数レイアウトして、プリントします。

全コマインデックス　内蔵メモリまたはカードの中の全画像を一覧にして、インデックス形式でプリントします。

予約プリント　プリント予約の内容にしたがってプリントします。あらかじめプリント予約された画像が無いときは、選択できません。
☞「プリント予約（DPOF）」（P.87）

プリント用紙を設定する

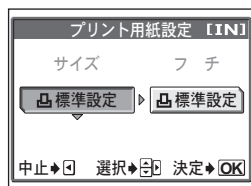
プリントする用紙サイズとフチの設定は、プリント用紙設定画面で設定します。

用紙サイズ　お使いのプリンタで使用できる用紙サイズから選択できます。

フチ　フチの有無を選択できます。マルチプリントモードの場合、フチの選択はありません。

　有り（□）　用紙の周辺に余白をつけてプリントします。

　無し（□）　用紙いっぱいにプリントします。

分割数　マルチプリントモードの場合のみ選択できます。分割数はお使いのプリンタの種類によって異なります。

ご注意

- プリント用紙設定画面が表示されない場合、用紙サイズとフチ、または分割数の設定は標準設定になります。

7 プリントする

プリントする画像を選ぶ

◁▷を押してプリントする画像を選択します。ズームボタンを押してインデックス表示して選択することもできます。

プリント　表示している画像が 1 枚プリントされます。

1枚予約　表示している画像をプリント予約します。予約マークが表示されます。

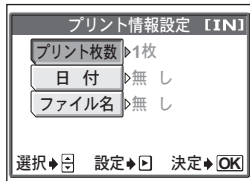
詳細予約　表示している画像のプリント枚数やプリントする情報を設定します。

予約マークが表示されます。

プリント枚数とプリントする情報を設定する（詳細予約）

プリント枚数　プリント枚数を設定します。枚数は10 枚まで設定できます。

日付（◴）　［有り］を選択すると、画像に日付がプリントされます。

ファイル名（FILE）　［有り］を選択すると、画像にファイル名がプリントされます。

エラーコードが表示されたときは

ダイレクトプリント設定中およびプリント中にカメラの液晶モニタにエラーコードが表示されたときは、以下のように対応してください。
対処方法については、お使いのプリンタの取扱説明書もご覧ください。

液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
接続されていません	カメラがプリンタに正しく接続されていません。	カメラとプリンタを正しく接続し直してください。
用紙がありません	用紙切れです。	用紙をプリンタに補充してください。
インクがありません	インク切れです。	インクをプリンタに補充してください。
紙づまりです	用紙が詰まっています。	詰まった用紙を取り除いてください。
プリンタの設定が変更されました	プリンタ側で用紙カセットを取り出すなどの操作をした。	プリントの設定中には、プリンタの操作はしないでください。
プリンタエラーです	エラーが発生しました。	カメラとプリンタの電源を切り、プリンタの状態を確認してから再度電源を入れ直してください。

ヒント

- その他のエラーコードが表示されたときは、「エラーコード」（P.110）をご確認ください。

プリント予約（DPOF）

プリント予約とは

プリント予約とは、カード内の画像にプリントする枚数や日付を印刷する指定を記憶させることです。

プリント予約は、カードに記録された画像にのみ設定することができます。あらかじめ画像が記録されているカードをカメラに入れてください。

プリント予約をすると、DPOF対応のプリンタやDPOF対応のプリントショップで簡単にプリントすることができます。DPOFとは、デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するための規格です。プリントショップや家庭でのプリントアウトで自動プリントが可能なように、プリントしたい画像や枚数などの指定をカードに記録します。

プリント予約した画像は以下の方法でプリントできます。

DPOF対応のプリントショップでプリントする

予約されている内容に従ってプリントできます。

DPOF対応のプリンタでプリントする

パソコンを使わずに、専用プリンタから直接プリントできます。詳しくはお使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。PCカードアダプタが必要な場合もあります。

DPOFを使用せずにプリントサービスを利用される方へ

内蔵メモリの画像をプリントショップでプリントすることはできません。カードにコピーしてプリントショップへお持ちください。

☞「内蔵メモリの画像をカードにコピーする（バックアップ）」（P.67）

プリントショップなどのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。

（例）　FILE 100–0005

フォルダの通し番号　画像の通し番号

ファイル番号

7 プリントする

ヒント

撮影時の画質モードとプリントの関係

パソコンやプリンタの解像度には一般的に1インチあたりの点（ピクセル）の数が用いられ、dpi（dot per inch）で示されます。同じ画像をプリントしても、プリント時のdpiの値を大きくすることでより鮮明に印刷することができますが、撮影された画像のピクセル数は変わらないため、実際に印刷されるサイズは小さくなります。その画像を拡大してプリントすることもできますが、画質は粗くなります。

プリントすることを前提として撮影するときや、大きいサイズでプリントしたいときは、撮影時の画質モードをできるだけ高いものに設定することをおすすめします。☞「画質について」（P.27）

ご注意

- 他の DPOF 機器で設定された DPOF 予約内容をこのカメラで変更することはできません。予約した機器で変更してください。
- 他の機器で DPOF 予約されているファイルがある場合、このカメラで新たにDPOF予約を行うと、以前に予約した内容は消去されます。
- カードに空き容量が少ないと予約できない場合があります。［カード残量がありません］と表示されます。
- DPOF予約で予約できる枚数は、1枚のカードにつき999枚までです。
- ［この画像は再生できません］と表示される画像でも、プリント予約を設定できることがあります。その場合、1 コマ再生だとプリント予約マーク（凸）は表示されません。複数の画像を表示（インデックス表示）しているときは、凸マークが表示され、プリント予約を確認できます。
- プリンタまたはプリントショップにより、一部機能が制限されることがあります。
- プリント予約は、カードに予約を記録するときに時間がかかることがあります。

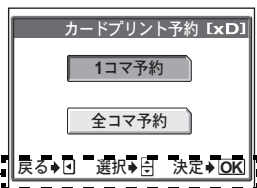
1コマ予約する

プリント予約する画像を表示して［1コマ予約］してみましょう。操作ガイドにしたがって設定します。

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［再生］▶［プリント予約］

☞「メニューの使い方」（P.16）

- 🎥マークのついた画像はプリント予約できません。
- すでにプリント予約した画像がある場合は、その予約設定を残すか解除するかを選択する画面が表示されます。

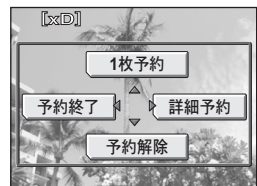
1 ［1コマ予約］を選択し、OKから押します。

2 プリント予約したいコマを選択し、OKを押します。

3 ［1枚予約］を選択します。

- プリント枚数が1枚に設定され、手順2の画面に戻ります。
- この画面で以下の設定を行うことができます。

詳細予約　プリント枚数、情報プリントを設定します。

予約解除　表示されている画像のプリント予約を解除します。
☞「プリント予約を解除する」（P.91）

予約終了　プリント予約を終了します。

1コマ予約メニュー画面

4 予約が終了したので、OK/MENUを押します。

- 1コマ予約メニュー画面が表示されます

5 ［予約終了］を選択します。

- カードプリント予約画面に戻ります。◁を何回か押すと再生画面に戻ります。

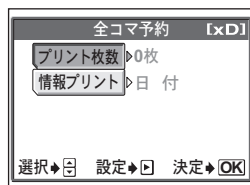
全コマ予約する

カードの中の全画像をプリント予約します。プリント枚数や撮影日時のプリントを設定することができます。

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［再生］▶［プリント予約］

☞「メニューの使い方」（P.16）

1 ［全コマ予約］を選択し、OK/MENUを押します。

2 ［プリント枚数］［情報プリント］から選択し、▷を押します。

全コマ予約画面

3 プリント枚数、情報プリントの設定を行います。

●プリント枚数を設定するには

プリント枚数を設定し、OK/MENUを押します。
△ ：枚数が増えます。
▽ ：枚数が減ります。

●情報プリントを設定するには

［無し］［日付］［時刻］を選択し、Ⓜを押します。

無し　画像のみプリントされます。
日付　プリント予約したすべての画像に撮影年月日がプリントされます。
時刻　プリント予約したすべての画像に撮影時刻がプリントされます。

4 **プリント枚数、情報プリントの設定後、Ⓜを押すと、プリント予約が設定されます。**

- 表示されている画像に 凸 マークが表示されます。
- カードプリント予約画面に戻ります。◁を何回か押すと再生画面に戻ります。

プリント予約を解除する

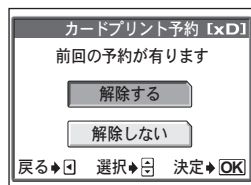
カード内の画像のプリント予約を解除します。
すべてのプリント予約を解除する方法と、選んだ画像のプリント予約だけを解除する方法があります。

●すべての予約の解除

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［再生］▶［プリント予約］

☞「メニューの使い方」（P.16）

1 **［解除する］を選択し、Ⓜを押します。**

- プリント予約した画像がない場合は、この画面は表示されません。
- ◁を何回か押すと再生画面に戻ります。

●1コマ予約の解除

トップメニュー ▶［モードメニュー］▶［再生］▶［プリント予約］

☞「メニューの使い方」（P.16）

1 ［解除しない］を選択し、Ⓞを押します。

- プリント予約した画像がない場合は、この画面は表示されません。

2 ［1コマ予約］を選択し、Ⓞを押します。

3 プリント予約を解除したい画像を表示し、Ⓞを押します。

- 1コマ予約メニュー画面が表示されます。

4 ［予約解除］を選択します。

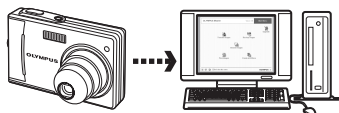
- プリント予約が解除され、手順3の画面に戻ります。

5 他に予約解除する画面がない場合は、Ⓞを押します。続いて［予約終了］を選択します。

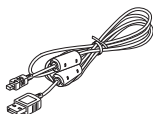
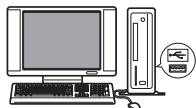
- カードプリント予約画面に戻ります。◁を何回か押すと再生画面に戻ります。

パソコン接続

8

撮影した画像をパソコンで利用してみましょう。
お好みの画像を選んでプリントするだけではありません。アプリケーションソフトを使って取り込んだ画像を日付別、目的別などに整理する、画像を編集・加工する、さらにインターネットを利用し、メールに画像を添付して送るなど、カメラの楽しみがどんどん広がります。
パソコンならではの画像の表示方法もありますね。スライドショーやカメラアルバムを作ったり、デスクトップの壁紙にして楽しんだりできます。

操作の流れ

カメラをパソコンにUSBケーブルで接続して、カメラの内蔵メモリまたはカードに保存されている画像を付属のOLYMPUS Masterを使ってパソコンに取り込みます。

以下のものを準備して操作をはじめてください。

ヒント

パソコンに取り込んだ画像を活用するには

→ グラフィックソフトを使用して画像を処理する場合は、必ずパソコンに取り込んでから行ってください。ソフトウェアによってはファイル（画像）がカメラの内蔵メモリまたはカードの中にある状態で画像処理（画像の回転など）を行うと、ファイルが壊れる可能性があります。

USB接続でカメラのデータを取り込めないとき

→ xD-ピクチャーカードは、PCカードアダプタ（別売）をお使いいただくと画像を取り込める場合もあります。詳しくは裏表紙に記載の「ホームページによる情報提供について」をご参照ください。

ご注意

- カメラをパソコンに接続して使用するときは、ACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。電池をご使用の場合は、十分に充電された電池をお使いください。パソコンとの接続中（通信中）は、自動的に電源が切れません。電池の残量がなくなると、カメラは途中で動作を停止します。カメラが動作を停止すると、パソコンが誤動作したり、パソコンとカメラの通信中の場合は画像データ（ファイル）を壊すことがあります。
- 誤動作の原因になりますので、パソコンとの接続中はカメラの電源を切らないでください。
- USBハブを経由してカメラを接続すると、ハブとパソコン間の相性によって動作が不安定になることがあります。この場合は、ハブを使用しないでパソコンとカメラを直接接続してください。

付属のOLYMPUS Masterを使う

画像の編集・管理を行うために付属のCD-ROMからOLYMPUS Masterをインストールしましょう。

OLYMPUS Masterとは

OLYMPUS Masterはデジタルカメラで撮影した画像をパソコンで楽しむためのアプリケーションソフトウェアです。パソコンにインストールすると、以下のようなことができます。

カメラやメディアから画像を取り込む

画像を整理・管理する
カレンダー形式で表示して画像を管理します。撮影日時やキーワードから、目的の画像をすばやくみつけることができます。

画像を見る・ムービーを見る
スライドショーを楽しんだり、ムービーを再生することもできます。

画像を編集する
画像の回転や反転、トリミング、サイズ変更などの編集ができます。

フィルタ機能、補正機能で画像を補正する

パノラマ写真を作る
パノラマモードで撮った画像を使ってパノラマ写真を作成します。

プリンタを使ってプリントする
インデックスプリントやカレンダー、ポストカードなど多彩なプリントが楽しめます。

上記以外の機能や操作方法については、OLYMPUS Masterの「ヘルプ」および取扱説明書をご覧ください。

OLYMPUS Masterをインストールする

お使いのパソコンのOSをご確認の上、インストールしてください。
新しいOSへの対応についてはオリンパスホームページ(http://www.olympus.co.jp)でご確認ください。

●動作環境について

Windows

OS	Windows 98SE/Me/2000 Professional/XP
CPU	Pentium III 500MHz以上
RAM	128MB以上（256MB以上を推奨）
ハードディスク容量	300MB以上
コネクタ	USBポート
モニタ	1024 × 768ドット以上、65,536色以上

ご注意

- OSがプレインストールされているパソコンのみ、動作対象となります。
- Windows 2000 Professional/XPでインストールする場合は、管理者権限を所有するユーザーでログオンしてください。
- QuickTime 6以上、Internet Explorerがインストールされている必要があります。
- Windows XPは、Windows XP Professional/Home Editionに対応しています。
- Windows 2000は、Windows 2000 Professionalにのみ対応しています。
- Windows 98SEをお使いの場合、USBドライバが自動的にインストールされます。

Macintosh

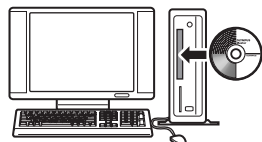
OS	Mac OS X 10.2以降
CPU	Power PC G3 500MHz以上
RAM	128MB以上（256MB以上を推奨）
ハードディスク容量	300MB以上
コネクタ	USBポート
モニタ	1024 × 768ドット以上、32,000色以上

ご注意

- USBポートが標準装備されていないMacintoshでは、パソコンとカメラをUSB接続した場合の動作を保証いたしません。
- QuickTime 6以上、Safari 1.0以上がインストールされている必要があります。
- 次の操作を行う時は、必ずメディアを取り出す手順（ゴミ箱にドラッグ＆ドロップ）を先に行ってください。この手順を行わずに操作すると、パソコン動作が不安定になり、再起動が必要となる場合があります。
  - カメラとパソコンの接続ケーブルを抜く
  - カメラの電源を切る
  - カメラの電池／カードカバーを開ける

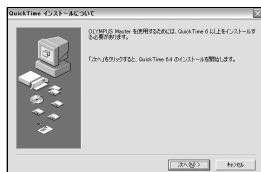
Windowsの場合

1 CD-ROMドライブにCD-ROMを入れます。

- OLYMPUS Masterセットアップ画面が表示されます。
- 表示されない場合は、「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックし、CD-ROM アイコンをクリックしてください。

2 「OLYMPUS Master」ボタンをクリックします。

- QuickTime インストール用の画面が表示されます。
- QuickTimeはOLYMPUS Masterを動作させるために必要です。すでにQuickTime 6以上がインストールされている場合は表示されません。手順4に進んでください。

3 「次へ」ボタンをクリックし、画面のメッセージに沿って操作を行います。

- 途中、使用許諾契約の画面が表示されたら、契約文をお読みのうえで「同意します」ボタンをクリックします。
- OLYMPUS Masterインストール用の画面が表示されます。

4 画面のメッセージにしたがって操作を行います。

- 途中、使用許諾契約の画面が表示されたら、契約文をお読みのうえで「はい」ボタンをクリックします。

- 途中、ユーザ情報入力画面が表示されたら、「名前」「OLYMPUS Masterシリアル番号」を入力し、お住まいの地域を選択して「次へ」ボタンをクリックします。シリアル番号はCD-ROMのパッケージに貼ってあるシールをご覧ください。
- 途中、DirectXの使用許諾画面が表示されたら、契約文をお読みのうえで「はい」ボタンをクリックします。
- Adobe Readerをインストールするかどうか確認する画面が表示されます。Adobe ReaderはOLYMPUS Masterの取扱説明書を見るために必要です。すでにAdobe Readerがインストールされている場合は表示されません。

5 Adobe Readerをインストールする場合は「OK」ボタンをクリックします。

- インストールしない場合は「キャンセル」ボタンをクリックします。
- Adobe Readerインストール用の画面が表示されます。画面のメッセージに沿って操作を行ってください。
- 続いて、蔵衛門体験版のインストールを行うかどうか確認する画面が表示されます。蔵衛門体験版をインストールする場合は「はい」ボタンをクリックします。

6 画面のメッセージにしたがって操作を行います。

- インストール完了画面が表示されたら、「完了」ボタンをクリックします。

7 再起動を求める画面が表示されたら、「今すぐコンピュータを再起動する」を選択して「OK」ボタンをクリックします。

- パソコンが再起動します。
- CD-ROMは、CD-ROMドライブから取り出して保管してください。

Macintoshの場合

1 CD-ROMドライブにCD-ROMを入れます。

- CD-ROMのウィンドウが表示されます。
- 表示されない場合は、デスクトップのCD-ROMアイコンをダブルクリックします。

2 「インストーラ」アイコンをダブルクリックします。

- OLYMPUS Masterのインストーラが起動します。
- 画面のメッセージに沿って操作を行ってください。
- 途中、使用許諾契約の画面が表示されたら、契約文をお読みのうえで「続ける」ボタン、「同意します」ボタンをクリックします。
- インストール完了画面が表示されます。

3 「終了」ボタンをクリックします。

- 最初の画面に戻ります。

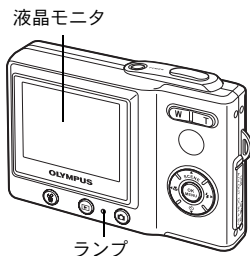
4 「再起動」ボタンをクリックします。

- パソコンが再起動します。
- CD-ROMは、CD-ROMドライブから取り出して保管してください。

カメラをパソコンに接続する

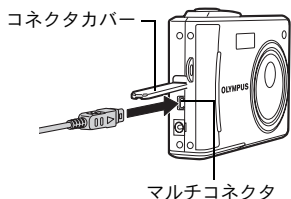
付属の専用USBケーブルで、カメラをパソコンに接続します。

1 カメラの電源が入っていないことを確認します。

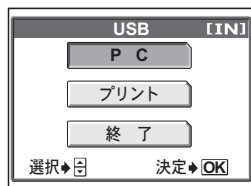
- 液晶モニタが消灯している。
- レンズが出ていない。
- ランプが消灯している。

2 パソコンのUSBポートに、カメラに付属のUSBケーブルを差し込みます。

- USBポートの位置はお使いのパソコンの取扱説明書でご確認ください。

3 付属のUSBケーブルをカメラのマルチコネクタに差し込みます。

- 自動的にカメラの電源が入ります。
- カメラの液晶モニタが点灯し、USBケーブルの接続先の選択画面が表示されます。

4 ［PC］を選択し、(OK/MENU)を押します。

5 パソコンがカメラを新しい機器として認識します。

- Windows 98SE/Me/2000の場合
  はじめてカメラとパソコンを接続したときは､パソコンがカメラを認識する動作を自動的に行います｡設定終了のメッセージが表示されたら､「OK」ボタンをクリックしてメッセージを終了してください。カメラは「リムーバブルディスク」として認識されます。

- Windows XPの場合
  パソコンに接続すると、画像ファイルの操作を選択する画面が表示されます。OLYMPUS Masterで画像を取り込みますので、「キャンセル」ボタンをクリックします。
- Mac OS Xの場合
  画像ファイルは通常iPhotoというアプリケーションで管理されます。はじめてカメラを接続するとiPhotoが起動しますので、iPhotoを終了させOLYMPUS Masterを起動してください。

ご注意

- パソコンに接続中は、カメラとしての機能は一切動作しません。

OLYMPUS Masterを起動する

Windowsの場合

1 デスクトップの「OLYMPUS Master」アイコン をダブルクリックします。

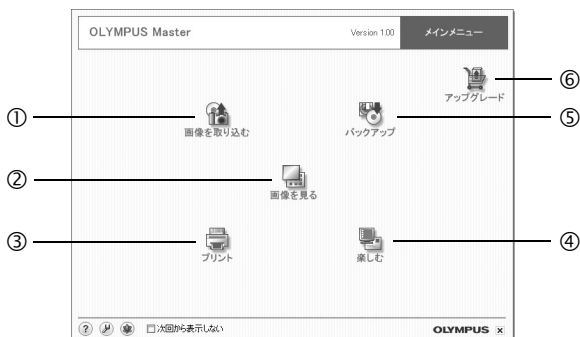
- メインメニューが表示されます。
- 最初の起動時、メインメニューの前にユーザ登録画面が表示されます。画面の案内にしたがって必要な情報を入力してください。

Macintoshの場合

1 「OLYMPUS Master」フォルダ内の「OLYMPUS Master」アイコン をダブルクリックします。

- メインメニューが表示されます。
- 最初の起動時、メインメニューの前にユーザ情報入力画面が表示されますので、「名前」「OLYMPUS Masterシリアル番号」を入力し、お住まいの地域を選択してください。

- ユーザ情報入力画面に続いて、ユーザー登録画面が表示されます。画面の案内にしたがって必要な情報を入力してください。

●OLYMPUS Masterのメインメニュー

①**「画像を取り込む」ボタン**
画像をカメラまたはメディアから取り込みます。

②**「画像を見る」ボタン**
ブラウズウィンドウが表示されます。

③**「プリント」ボタン**
プリントメニューが表示されます。

④**「楽しむ」ボタン**
楽しむメニューが表示されます。

⑤**「バックアップ」ボタン**
画像をバックアップします。

⑥**「アップグレード」ボタン**
OLYMPUS Master Plusへアップグレードできるウィンドウが表示されます。

●OLYMPUS Masterを終了するには

1 メインメニューで「閉じる」ボタン ✖ をクリックします。

- OLYMPUS Masterが終了します。

カメラの画像をパソコンで表示する

取り込んで保存する

カメラの画像をパソコンに保存します。

1 OLYMPUS Masterメインメニューで「画像を取り込む」ボタン をクリックします。

- 取り込み元選択メニューが表示されます。

2 「カメラから」ボタン をクリックします。

- 取り込み元ウィンドウが表示されます。カメラ内のすべての画像が一覧表示されます。

3 画像ファイルを選択し、「取り込み」ボタンをクリックします。

- 取り込み完了のメッセージが表示されます。

4 「今すぐ画像を見る」ボタンをクリックします。

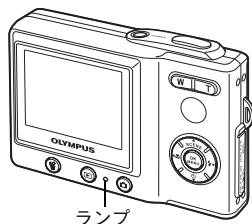
- ブラウズウィンドウに取り込んだ画像が表示されます。
- ブラウズウィンドウの「メニュー」をクリックすると、メインメニューに戻ります。

ご注意

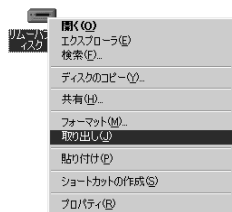
- 画像の取り込み中はカメラ本体のランプがオレンジ色に点滅します。点滅している間は絶対に以下のことをしないでください。
  - カメラの電池／カードカバーを開ける
  - ACアダプタを抜き差しする

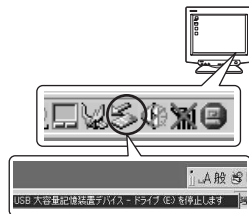
●カメラを取り外すには

カメラの画像をパソコンに取り込んだら、カメラを取り外すことができます。

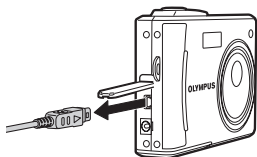
1 カメラ本体のランプがオレンジ色に点滅していないことを確認します。

2 USBケーブルを抜く準備をします。

Windows 98SEの場合

1「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックして､「リムーバブルディスク」アイコンを右クリックし､メニューを表示させせます。
2 メニューの「取り出し」をクリックします。

Windows Me/2000/XPの場合

1 システムトレイに表示されている「ハードウェアの取り外し」アイコン をクリックします。
2 表示されたメッセージをクリックします。
3「デバイスは安全に取り外すことができます」というメッセージが表示されたら､「OK」ボタンをクリックします。

Macintoshの場合

1 デスクトップの「名称未設定」(または「NO_NAME」）アイコンをドラッグすると「ゴミ箱」アイコンが「取り出し」アイコンに変わりますので、そのまま「取り出し」アイコンの上にドロップしてください。

3 **カメラ本体のランプが緑色に点滅しているのを確認して、カメラからUSBケーブルを抜きます。**

ご注意

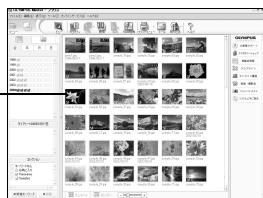
- Windows Me/2000/XPの場合：「ハードウェアの取り外し」をクリックした際、「カメラを停止できません」という警告画面が表示される場合があります。その場合は、カメラの画像データを読み込み中でないこと、またカメラの画像ファイルを開いていたアプリケーションが起動していないことを確認してください。確認後、「ハードウェアの取り外し」の操作を再度行い、その後ケーブルを外してください。

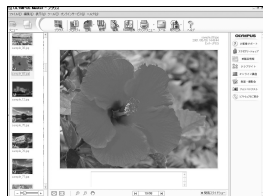
静止画／ムービーを見る

1 **OLYMPUS Masterメインメニューで「画像を見る」ボタン をクリックします。**

- ブラウズウィンドウが表示されます。

2 **見たい静止画のサムネイルをダブルクリックします。**

サムネイル

- ビューモードに切り換わり、画像が拡大されます。
- ブラウズウィンドウの「メニュー」をクリックすると、メインメニューに戻ります。

8 パソコン接続

●ムービーを見るには

1 ブラウズウィンドウで見たいムービーのサムネイルをダブルクリックします。

- ビューモードに切り換わり、ムービーの1コマ目が表示されます。

2 ムービー表示部下側の再生ボタン をクリックするとムービーが再生されます。

コントローラ各部の名称とはたらきは以下のとおりです。

	項目	詳細
1	再生スライダー	スライダーを移動して、任意のフレームを指定できます。
2	時間表示	再生中の経過時間が表示されます。
3	再生（一時停止）ボタン	ムービーを再生します。再生中は一時停止ボタンになります。
4	1フレーム戻るボタン	1つ前のフレームを表示します。
5	1フレーム進むボタン	次のフレームを表示します。
6	停止ボタン	再生を停止し、先頭のフレームに戻ります。
7	繰り返しボタン	ムービーが繰り返し再生されます。
8	ボリュームボタン	ボリューム調整スライダーが表示されます。

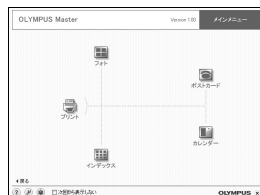
プリントする

フォト、インデックス、ポストカード、カレンダーなどのプリントメニューがあります。ここではフォトプリントを例に説明します。

1 OLYMPUS Masterメインメニューで「プリント」ボタン をクリックします。

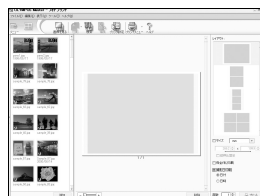
- プリントメニューが表示されます。

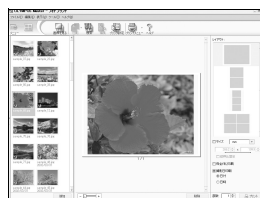
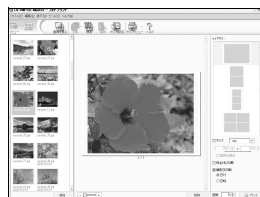
2 「フォト」ボタン ▦ をクリックします。

- フォトプリントウィンドウが表示されます。

3 フォトプリントウィンドウの「プリンタ設定」ボタンをクリックします。

- プリンタ設定画面が表示されますので、必要に応じてプリンタの設定を行います。

4 プリントするレイアウトやサイズなどを選択します。

- 日付または日時を入れてプリントしたいときは、「撮影日印刷」にチェックをつけて「日付」または「日時」を選択します。

5 プリントしたい画像のサムネイルを選択し、「追加」ボタンをクリックします。

- 選択した画像がレイアウト上にプレビュー表示されます。

6 プリントする部数を設定します。

7 「プリント」ボタンをクリックします。

- プリントが開始されます。
- フォトプリントウィンドウの「メニュー」をクリックすると、メインメニューに戻ります。

OLYMPUS Masterを使用せずにパソコンに画像を取り込んで保存する

このカメラはUSBストレージクラスに対応しています。OLYMPUS Masterを使用せずに付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続し、画像を取り込んで保存することもできます。接続できるパソコンの環境は以下のとおりです。

Windows：Windows 98SE/Me/2000 Professional/XP

Macintosh：Mac OS 9.0-9.2/X

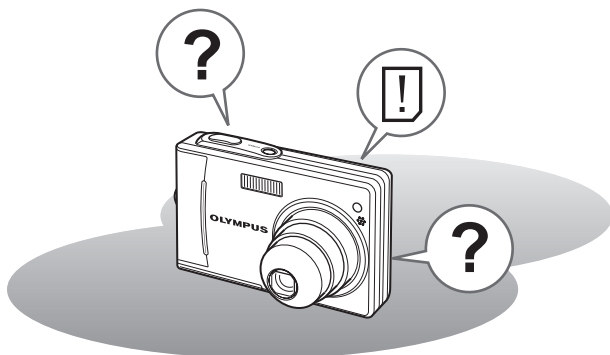
ご注意

- Windows 98SEをお使いの場合は、USBドライバのインストールが必要です。カメラとパソコンをUSBケーブルで接続する前に、付属のOLYMPUS Master CD-ROMの、以下のフォルダのファイルをダブルクリックしてください。
  （お使いのパソコンのドライブ名）：¥USB¥INSTALL.EXE
- USB端子を装備していても、以下の環境では正常な動作は保証いたしません。
  - Windows 95/98/NT 4.0
  - Windows 95/98からアップグレードしたWindows 98SE
  - Mac OS 8.6以前（ただし、工場出荷時にUSB端子、USB MASS Storage Support 1.3.5を装備したMac OS 8.6は動作確認がされています。）
  - 拡張カードなどでUSB端子を増設したパソコン
  - 工場出荷時にOSがインストールされていないパソコンおよび自作パソコン

付録

9

オリンパスからのお知らせです。
- カメラを操作中エラーメッセージが表示されたとき
- パワースイッチを押しても電源が入らず途方にくれたとき
- 大事なカメラの保管方法が知りたいとき
- 取扱説明書で使われている用語の意味を知りたいときなどなど。そんなときぜひご一読ください。

困ったときは

エラーコード

液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
このカードは使用できません	カードに問題があります。	このカードは使用できません。新しいカードを入れてください。
書き込み禁止になっています	カードが書き込み禁止になっています。	パソコンを使って読み取り専用の設定がされています。再度パソコンを使って設定を解除してください。
撮影可能枚数が0です	内蔵メモリの撮影可能枚数が0のため、撮影できません。	カードを使用してバックアップするか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
撮影可能枚数が0です	カードの撮影可能枚数、または時間が0のため、撮影できません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
内蔵メモリに残量がありません	内蔵メモリに空き容量がなく、静止画の編集など新たな記録をすることができません。	カードを入れるか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
カード残量がありません	カードに空き容量がなく、プリント予約や静止画の編集、内蔵メモリのバックアップなど新たな記録をすることができません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。

液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
画像が記録されていません	内蔵メモリまたはカードに記録画像がないため画像が再生できません。	内蔵メモリまたはカードに画像が記録されていません。 撮影してから再生してください。
この画像は再生できません	選択した画像に問題があり、再生できません。	パソコンの画像ソフトなどで再生してください。それでも再生できない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。
カードカバーが開いています	電池／カードカバーが開いています。	電池／カードカバーを閉めてください。
日時を設定してください	はじめてカメラを使用するときや長時間電池を抜いていたときには、日時が初期設定に戻っています。	日時を設定してください。
電池残量がありません	電池残量が完全になくなりました。	電池を充電してください。
カードセットアップ [xD] 電源オフ カードフォーマット 選択 決定 OK	カードがこのカメラで使用できません。またはカードがフォーマットされていません。	別のカードに交換するか、カードをフォーマットしてください。 • ［電源オフ］を選択し、OK MENUを押して新しいカードを入れてください。 • ［カードフォーマット］を選択し、OK MENUを押してフォーマットを実行します。フォーマットすると、カード内のデータはすべて消去されます。

トラブルシューティング

●準備操作

原因	こうしましょう	参照ページ
カメラが動かない／ボタンを押しても動作しない		
電源が切れている	パワースイッチを押して、電源を入れてください。	P.10
電池残量が少なくなった	電池を充電してください。	—
寒さで電池の性能が一時的に低下した	電池をポケットに入れるなどして温めてからご使用ください。	—
カメラがスリープモード（待機状態）になっている	シャッターボタンやズームボタンを押してください。	P.10
パソコンに接続している	パソコンと接続中、カメラは動作しません。	—

●撮影

原因	こうしましょう	参照ページ
シャッターボタンを押しても撮影ができない		
電池残量が少なくなった	電池を充電してください。	—
再生モードになっている	撮影ボタンを押して撮影モードに切り換えてください。	P.12
フラッシュの充電が完了していない	一度シャッターボタンから指をはなし、ϟ（フラッシュ充電）マークの点滅が終わってから撮影してください。	P.42
電源が入っていない	パワースイッチを押してください。	P.10
内蔵メモリまたはカードの容量がいっぱいになった	不要な画像を消すか、新しいカードを入れてください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。	P.68
撮影中や内蔵メモリまたはカードの書き込み中に電池がなくなった（液晶モニタが消灯した。）	電池を充電してください。（カメラ本体のランプがオレンジ色に点滅しているときは、消灯するまでお待ちください。）	—
カードに問題がある	「エラーコード」でご確認ください。	P.110

原因	こうしましょう	参照ページ
液晶モニタが見にくい		
カメラ内が結露*している	電源を切ってしばらくおき、カメラ全体が環境温度になじんで乾燥するのを待ってからお使いください。	–
液晶モニタの明るさの設定が適切でない	［モニタ調整］で液晶モニタの明るさを調整してください。	P.76
太陽光の下である	太陽の光を手などでさえぎって撮影してください。	–
撮影時に液晶モニタの画面に縦スジが入る	晴天下のような明るい被写体にカメラを向けると、画面に縦スジが入ることがあります。故障ではありません。	–
画像ファイルに記録される日付が正しくない		
日時が設定されていない	日時を設定してください。お買い上げ時には日時の設定はされていません。	P.77
電池を抜いて放置していた	電池を抜いた状態で約1日放置すると、日時設定が解除されます。もう一度、日時を設定してください。	P.77
設定した機能が電源を切ると元に戻ってしまう		
［設定保持］が［しない］に設定されている	［設定保持］を［する］に設定してください。	P.72
ピントが合わない		
被写体との距離が近すぎる	被写体との距離をはなして撮影してください。ズームがもっとも広角のときに60cmよりも近づいて撮影するときは、マクロモードに設定してください。	P.41
AFが苦手な被写体である	フォーカスロックを使ってピントを合わせてください。	P.25
カメラ内が結露*した	電源を切ってしばらくおき、カメラ全体が環境温度になじんで乾燥するのを待ってからお使いください。	–

* 結露： 外気が寒いときに空気中にある水蒸気が急速に冷やされて水滴になること。カメラが冷えた状態で急に暖かい部屋などに入れた場合に発生します。

原因	こうしましょう	参照ページ
液晶モニタが消灯した		
カメラがスリープモード（待機状態）になっている	シャッターボタンやズームボタンを押してください。	P.10
フラッシュが発光しない		
フラッシュが［発光禁止］に設定されている。	フラッシュの設定を［発光禁止］以外に設定してください。	P.42
明るい被写体である	フラッシュを強制的に発光させたい場合は、フラッシュモードを［強制発光］に設定してください。	P.42
ムービー撮影をしている	ムービーモードではフラッシュはご使用になれません。以外の撮影モードにしてください。	P.46
パノラマ撮影をしている	パノラマではフラッシュはご使用になれません。パノラマ撮影を解除してください。	P.48
電池の消耗が早い		
寒い中で使用している	低温下では電池の性能が低下します。カメラを防寒具や衣類の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。	–
電池残量が正しく表示されていない	カメラの消費電力が大きく変化する際、電池残量の警告表示なしで電源が切れる場合があります。電池を充電してください。	–
液晶モニタの電池残量表示が赤く点滅している		
電池の残量がない	電池を充電してください。	–

●画像の再生

原因	こうしましょう	参照ページ
内蔵メモリの画像が再生できない		
カードが入っている	カードが入っているときは、カード内の画像しか再生できません。カードを抜いてください。	P.31, 33
撮影した画像のピントが合っていない		
AFが苦手な被写体を撮影した	フォーカスロックを使ってピントを合わせてください。	P.25
シャッターボタンを押すときにカメラが動いてしまった（手ぶれ）	カメラを正しく構え、シャッターボタンを静かに押して撮影してください。 また、シャッター速度が遅くなると手ぶれが起きやすくなります。夜景撮影や暗い状況でフラッシュを［発光禁止］にして撮影するときは三脚をご使用になるか、カメラをしっかり構えて撮影してください。	P.24
レンズが汚れていた	レンズの汚れを拭きとってください。レンズブロワー（市販）でレンズのほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパー（市販）でやさしく拭いてください。レンズを汚れたままにしておくと、かびが生えることがあります。	P.119
撮影した画像が明るすぎる		
フラッシュの設定が［強制発光］になっていた	［強制発光］以外のフラッシュモードに設定してください。	P.42
中央部に暗いものがある	中央部に暗いものがあると周辺部が明るく写ります。露出補正をマイナス（－）側に設定してください。	P.51
ISO感度が高感度設定になっている	［ISO感度］を［オート］または［64］などの低感度に設定してください。	P.54
撮影した画像が暗い		
フラッシュを指で覆ってしまった	カメラを正しく構え、フラッシュを覆わないように気をつけてください。	P.24
撮りたいものがフラッシュ撮影範囲より遠かった	フラッシュ撮影範囲内で撮影してください。	P.42
フラッシュが［発光禁止］になっていた	フラッシュを［発光禁止］以外に設定してください。	P.42

原因	こうしましょう	参照ページ
逆光状態で小さい被写体を撮影した	フラッシュを［強制発光］に設定するか、測光を［スポット］に設定して撮影してください。	P.42, 53
中央部に明るいものがある	中央部に明るいものがあると全体が暗く写ります。露出補正をプラス（+）側に設定してください。	P.51
雪景色などの明るい被写体を撮ると実際より暗く見える画像が撮れます	露出補正をプラス（+）側に補正します。	P.51
室内で撮影した画像の色がおかしい		
照明の色が影響した	照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P.52
撮影する構図の中に白の基準になるものがなかった	白いものを入れて撮影するか、フラッシュモードを［強制発光］に設定して撮影してください。	P.42
ホワイトバランスの設定を間違えた	照明に合わせて、もう一度ホワイトバランスを設定し直してください。	P.52
画像の一部が暗い		
レンズに指やストラップがかかってしまった	カメラを正しく構え、レンズに指やストラップがかからないように気をつけてください。	P.24
液晶モニタ上で再生できない		
電源が入っていない	▶を押して再生モードで電源を入れてください。	P.11
撮影モードになっている	▶を押して再生モードに切り換えてください。	P.11, 12
内蔵メモリまたはカードに画像が記録されていない	液晶モニタに［画像が記録されていません］と表示されます。撮影してから再生してください。	–
カードに問題がある	「エラーコード」でご確認ください。	P.110
テレビに接続している	AVケーブルを接続しているときは液晶モニタは点灯しません。	P.64
1コマ消去・全コマ消去ができない		
画像がプロテクトされている	画像のプロテクトを解除してください。	P.66
カメラとテレビを接続してもテレビに映像がでない		
カメラの映像出力信号が間違っている	使用する地域の映像信号にビデオ出力の設定を合わせてください。	P.65
テレビの映像信号の設定が間違っている	テレビをビデオ（映像）入力モードにしてください。	P.64

原因	こうしましょう	参照ページ
液晶モニタが見にくい		
液晶モニタの明るさの設定が適切でない	［モニタ調整］で液晶モニタの明るさを調節してください。	P.76
太陽光の下である	太陽の光を手などでさえぎってください。	–

●パソコンやプリンタとの接続

原因	こうしましょう	参照ページ
プリンタと接続できない		
USB ケーブルでプリンタに接続したあと、液晶モニタで［PC］を選択した	USB ケーブルを抜いて最初の手順からやり直してください。	P.81
プリンタが PictBridge に対応していない	ご使用のプリンタの取扱説明書をご確認ください。または、プリンタメーカーにお尋ねください。	–
パソコンでカメラが認識されない		
パソコンがカメラの認識に失敗した	カメラからUSBケーブルを抜いて、もう一度接続し直してください。	P.81
USB ドライバがインストールできていない	OLYMPUS Masterをインストールしてください。	P.96

9 付録

アフターサービス

●保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

●本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。取扱説明書にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満1ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。

●保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。

●当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に当社で保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店、当社修理センター、またはサービスステーションにお問い合わせください。

●海外で故障・不具合が生じた場合は、オリンパス代理店リストに記載の Ⓦ マークが付いた販売店・サービスステーションまでご依頼ください。

●本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等）については補償しかねます。また、運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。

●修理品をご送付の場合は、修理箇所を指定した書面を同封して十分な梱包でお送りください。また控えが残るよう宅配便または書留小包のご利用をお願いします。

9
付録

お手入れ

●カメラのお手入れ

カメラの外側

- 柔らかい布でやさしく拭いてください。汚れがひどい場合は、うすめた低刺激のせっけん水に布を浸して、硬く絞ってから、汚れを拭き取ります。そのあと、乾いた布でよく拭きます。海辺でカメラを使用した場合は、真水に浸した布を硬く絞って拭き取ります。

液晶モニタ

- 柔らかい布でやさしく拭きます。

レンズ

- レンズブロワー（市販）でほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパーでやさしく拭きます。

カード／電池／充電器

- 乾いた柔らかい布で拭きます。

ご注意

- 絶対にベンジンやアルコールなどの強い溶剤や化学雑巾を使わないでください。
- レンズを汚れたままにしておくと、かびが生えることがあります。

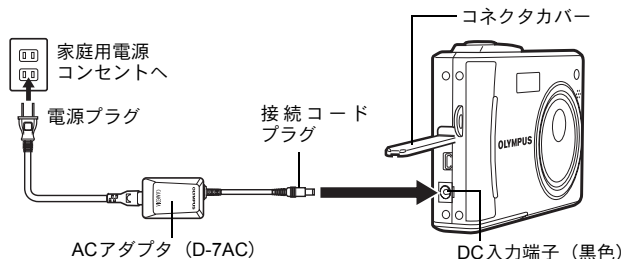
●カメラの保管

- カメラを長期間使用しないときは、電池やACアダプタ、カードを取り外してから風通しがよく涼しい乾燥した場所に保管してください。
- 保管期間中でも、ときどき電池を入れてカメラの動作を確かめてください。

ご注意

- 薬品を扱うような場所での保管は腐食などの原因になるため避けてください。

ACアダプタ（別売）

パソコンに画像をダウンロードするなど、時間がかかる作業を行なう場合には、ACアダプタのご使用をおすすめします。
家庭用コンセントを使う場合は専用のACアダプタ（D-7AC）が必要です。専用のACアダプタ以外はご使用にならないでください。

ヒント

- ACアダプタを接続しているときは、カメラに電池が入っていても電力はACアダプタから供給されます。カメラ内の電池は充電されません。

ご注意

- カメラの電源が入っているときにACアダプタを抜き差ししないでください。カメラに設定されている設定値や機能にトラブルが生じる場合があります。
- ACアダプタの取扱説明書を必ずお読みください。

使用上のご注意

使用条件について

●本製品には精密な電子部品が組み込まれています。以下のような場所で長時間使用したり放置すると、動作不良や故障の原因となる可能性がありますので、避けてください。
- 直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど、高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
- 砂、ほこり、ちりの多い場所
- 火気のある場所
- 水に濡れやすい場所
- 激しい振動のある場所

●カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。

●レンズを直射日光に向けたまま撮影または放置しないでください。CCDの退色・焼きつきを起こすことがあります。

●寒い戸外から暖かい室内に入るなど急激に温度が変わったときは、カメラ内部で結露が発生する場合があります。ビニール袋などに入れてから室内に持ち込み、カメラを室内の温度になじませてからご使用ください。

●カメラを長期間使用しないと、カビがはえるなど故障の原因となることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。

●カメラのそばにクレジットカードや磁気定期券、フロッピーディスクなどの磁気の影響を受けやすいものを近づけないでください。データが壊れて使用できなくなることがあります。

●三脚に取り付ける際は、カメラを回さず、三脚のネジを回してください。

●本体の電気接点部には手を触れないでください。

●レンズに無理な力を加えないでください。

電池について

●当社製リチウムイオン電池は、当社デジタルカメラ専用です。他の機器に使用しないでください。

●電池の（+）（−）端子は、常にきれいにしておいてください。汗や油で汚れていると、接触不良を起こす原因となります。充電や使用する前に、乾いた布でよく拭いてください。

●充電式電池をはじめてご使用になる場合、また長時間使用していなかった場合は、ご使用の前に必ず充電してください。

- 一般に電池は低温になるにしたがって一時的に性能が低下することがあります。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなど保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると性能が回復します。
- 撮影条件、使用環境および電池により、撮影枚数が減少することがあります。
- 長期間の旅行などには、予備の電池を用意されることをおすすめします。海外では地域によって電池の入手が困難な場合があります。
- 電池を捨てる際は、地域の規定にしたがって処分してください。
- 使用済みの充電式電池は貴重な資源です。充電式電池を捨てる際には、（+）（−）端子をテープなどで絶縁してから最寄の充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。詳しくは社団法人電池工業会のホームページ（http://www.baj.or.jp/recycle/）をご覧ください。

液晶モニタについて

本製品は背面の表示に、液晶モニタを使用しています。

- カメラを太陽などの強い光線に向けると、内部を破損するおそれがあります。
- 液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりするおそれがあります。万一破損した場合は中の液晶を口に入れないでください。液晶が手足や衣類に付着した場合は、直ちにせっけんで洗い流してください。
- 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見えることがありますが、故障ではありません。
- 被写体が斜めのとき、液晶モニタにギザギザが見えることがありますが、故障ではありません。記録される画像には影響ありません。
- 一般に低温になるにしたがって液晶モニタは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した液晶モニタは、常温に戻ると回復します。
- **本製品の液晶モニタは、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶モニタの構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**

用語解説

画素数
画像を形成する最小単位の点。画素数が多いほど、サイズの大きな画像を作るのに適しています。

画像サイズ
画像を構成する点（ピクセル）の数で表した画像の大きさのこと。例えば、640 × 480で撮影した画像は、パソコンのモニタの設定が640 × 480のときではモニタ全体に表示されますが、1024 × 768ではモニタの一部分にだけ表示されます。

銀塩写真
ハロゲン化銀を使った、従来からあるフィルムを用いた写真のことをいいます。

コントラスト検出方式
被写体までの距離を測るのに使用している方法。被写体のコントラストの大小を検出することで、ピントがあったかどうかを検出します。

スリープモード（待機状態）
電池を節約するためのモード。電源を入れたままカメラを一定時間放置すると、電池を節約するためにカメラは動作を停止します。シャッターボタンや十字ボタンなどの操作をすると、すぐにカメラは動作します。

ノイズリダクション
暗いところの撮影では、CCDにあたる光の量が少なくなるので、遅いシャッター速度で撮影します。長時間露光時はCCDに光があたっていない部分からも信号が発生し、ノイズとして画像に記録されます。ノイズリダクションが働くとカメラが自動的にノイズを軽減してきれいな画像を撮影することができます。

露出
画像が写るために得る光の量。シャッター速度と絞りでレンズを通して入ってくる光の量を調節して、露出を決めます。

●アルファベット順

CCD（charge coupled device）
レンズを通して入ってきた光りを受けて、電気信号に変換する素子。CCDで受けた光をRGBの信号に変換して、一つの画像を作り出します。

DCF（design rule for camera file system）
電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された、画像ファイルに関する規格。

DPOF（digital print order format）
デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するフォーマット。画像を保存したカードにプリントしたい画像の指定や、枚数の指定情報を記録することで、DPOF対応の写真店やプリンタでプリントアウトを簡単に行うことができます。

EV（exposure value）
露出値。絞り値がF1、シャッター速度が1秒のときの光量をEV0と規定し、それより絞りを一段絞ったり、シャッター速度を一段早くするごとに、数値は1ずつ多くなります。EVは明るさとISO感度でも表せます。

ISO
国際標準化機構（ISO）の規格で決められた、フィルム感度の表示法。通常「ISO100」のように表記します。数値が大きくなるほど、光に対する感度が強くなり、少ない光でも感光します。

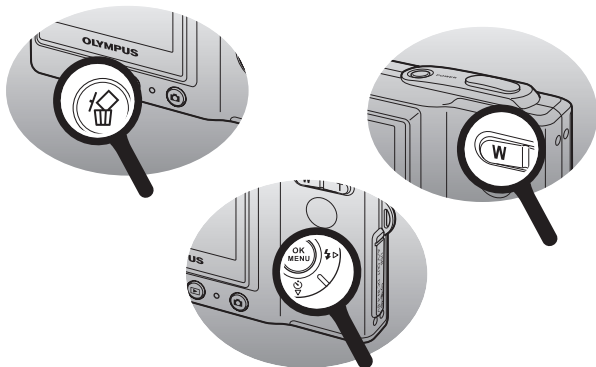
JPEG（joint photographic experts group）
静止画の圧縮方式。このカメラで撮影した写真（画像）は、JPEG形式で記録されます。パソコンに読み込めば、グラフィックス用のアプリケーションソフトで加工したり、インターネット閲覧ソフト（ブラウザ）で見ることができます。

NTSC/PAL（National Television Systems Committee/Phase Alternating Line）
テレビの放送方式。NTSCは主に日本、北米、韓国で使用され、PALは主にヨーロッパ諸国や中国で使用されています。

PictBridge
異なるメーカーのプリンタとデジタルカメラを接続し、画像を直接プリントすることを目的とした規格です。

TFT（thin-film transistor）液晶
薄膜で作られたトランジスタを利用したカラー液晶モニタ。

資料

1章から8章で説明したカメラのすべての機能を網羅的に紹介しています。
カメラのボタンや部位の名前、液晶モニタに表示されるアイコンの名前と意味、トップメニュー・モードメニューの一覧など、必要に応じてご覧ください。
索引もありますので、目次からは見つからない機能や項目が記載されているページを探すときにお使いください。また、「各部の名前」や「メニュー一覧」も索引の役目をはたしますので、有効にご活用ください。

メニュー一覧

● 撮影モード（SCENE）P

トップメニュー	タブ	項目	選択肢	参照頁
モードメニュー	撮　影	デジタルズーム※1	オフ／オン	P.40
		測光	中央重点／スポット	P.53
		パノラマ※1※2		P.48
		合成ツーショット※1		P.50
		ISO感度	オート／64／100／200／320	P.54
	メモリ（カード）	メモリフォーマット（カードフォーマット）	フォーマット／中止	P.70
		バックアップ※2	バックアップ／中止	P.67
	設　定	設定保持	する／しない	P.72
		（言語アイコン）	日本語／ENGLISH	P.73
		ビープ音	オフ／小／大	P.74
		レックビュー	オフ／オン	P.74
		ファイル名メモリー	リセット／オート	P.75
		ピクセルマッピング	スタート	P.76
		モニタ調整		P.76
		日時設定		P.77
		ビデオ出力	NTSC／PAL	P.65
露出補正			–2.0～0.0～+2.0	P.51
画質モード※3			SHQ／HQ／SQ1／SQ2	P.27
ホワイトバランス			オート／晴天／曇天／電球／蛍光灯	P.52

※1 ムービー（🎥）のときは表示されません。

※2 カードがカメラに入っていないときは選択できません。

※3 ムービー（🎥）のときはHQ／SQになります。

資料

10

● 再生モード（静止画のとき）

トップメニュー	タブ	項目	選択肢	参照頁
モードメニュー	再　生	回転表示	+90°／0°／90°	P.57
		プリント予約※1	1コマ予約／全コマ予約	P.89,90
	編　集	モノクロ作成	新規作成／中止	P.60
		セピア作成	新規作成／中止	P.60
		リサイズ	640 × 480／320 × 240／中止	P.60
	メモリ(カード)	全コマ消去	消去／中止	P.69
		メモリフォーマット（カードフォーマット）	フォーマット／中止	P.70
		バックアップ※1	バックアップ／中止	P.67
	設　定	設定保持	する／しない	P.72
		(言語アイコン)	日本語／ENGLISH	P.73
		ビープ音	オフ／小／大	P.74
		モニタ調整		P.76
		日時設定		P.77
		ビデオ出力	NTSC／PAL	P.65
		インデックス表示	4／9／16	P.57
スライドショー				P.58
情報表示				P.66
プロテクト				P.66

※1 カードがカメラに入っていないときは選択できません。

資料

10

● 再生モード（ムービーのとき）

トップメニュー	タブ	項目	選択肢	参照頁
モードメニュー	編　集	インデックス作成	決定／再設定／中止	P.62
	メモリ（カード）	全コマ消去	消去／中止	P.69
		メモリフォーマット（カードフォーマット）	フォーマット／中止	P.70
		バックアップ※1	バックアップ／中止	P.67
	設　定	設定保持	する／しない	P.72
		（言語アイコン）	日本語／ENGLISH	P.73
		ビープ音	オフ／小／大	P.74
		モニタ調整		P.76
		日時設定		P.77
		ビデオ出力	NTSC／PAL	P.65
		インデックス表示	4／9／16	P.57
ムービープレイ				P.59
情報表示				P.66
プロテクト				P.66

※1 カードがカメラに入っていないときは選択できません。

初期設定一覧

各機能は工場出荷時には下記のように設定されています。

● 撮影モード

ズーム	35mm
露出補正	0.0
フラッシュモード	オート発光（：発光禁止）
セルフタイマー	オフ
測光	中央重点
ISO感度	オート
マクロ	オフ
撮影シーン	Pオート
デジタルズーム	オフ
パノラマ	オフ
合成ツーショット	オフ
画質モード	HQ
ホワイトバランス	オート
レックビュー	オン
ファイル名メモリー	リセット

● 再生モード

情報表示	オフ
プロテクト	オフ
回転再生	0°
プリント予約	オフ
インデックス表示	9

● その他

設定保持	しない
	日本語
モニタ調整	標準
日時設定	年月日 2005.01.01 00:00
ビデオ出力	NTSC
ビープ音	小

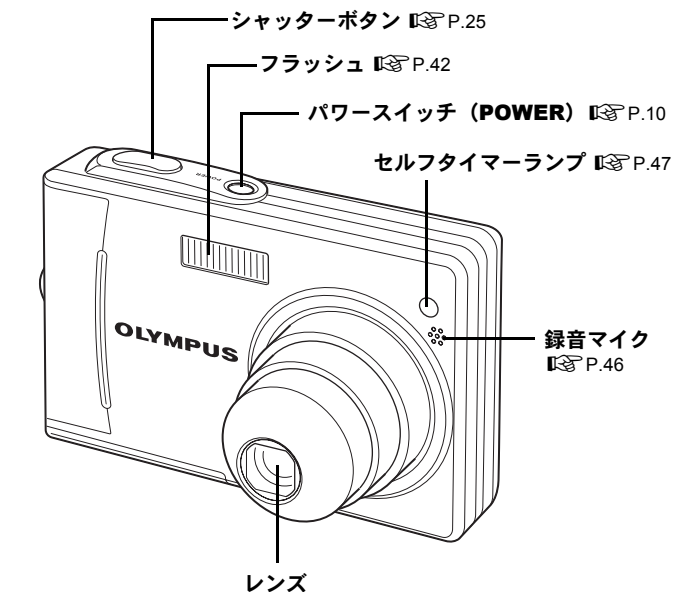
撮影シーン別設定可能な機能

撮影シーンによっては、設定できない項目があります。詳しくは、以下の表をご覧ください。

撮影シーン／機能	P									
マクロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
フラッシュ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
セルフタイマー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
光学ズーム	○	○	○	○	○	○	○	○	※1	※2
画質モード	○	○	※3	○	○	○	○	○	○	○
露出補正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ホワイトバランス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
測光	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ISO感度	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
デジタルズーム	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×
パノラマ	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×
合成ツーショット	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
メモリフォーマット（カードフォーマット）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
設定保持	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ビープ音	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
レックビュー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
ファイル名メモリー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ピクセルマッピング	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
モニタ調整	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日時設定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ビデオ出力	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※1 広角（W側）固定になります。
※2 撮影待機時のみ設定できます。
※3 SQ1、SQ2のみ設定できます。

各部の名前

カメラ

シャッターボタン ☞P.25
フラッシュ ☞P.42
パワースイッチ（POWER） ☞P.10
セルフタイマーランプ ☞P.47
OLYMPUS
録音マイク
☞P.46
レンズ

コネクタカバー
☞P.64, 81, 100, 120
OLYMPUS
マルチコネクタ ☞P.64, 81, 100
DC 入力端子 ☞P.120

ズームボタン（W/T・▦Q）☞P.39, 56

液晶モニタ ☞P.76, 133

ランプ
☞P.10, 11, 31, 100, 104

ストラップ取付部

OK ／ MENU
ボタン（Ⓞ）
☞P.16, 19

十字ボタン
（△▽◁▷）
☞P.16, 19

電池／カードカバー
☞P.31

撮影ボタン（◎）☞P.10, 14

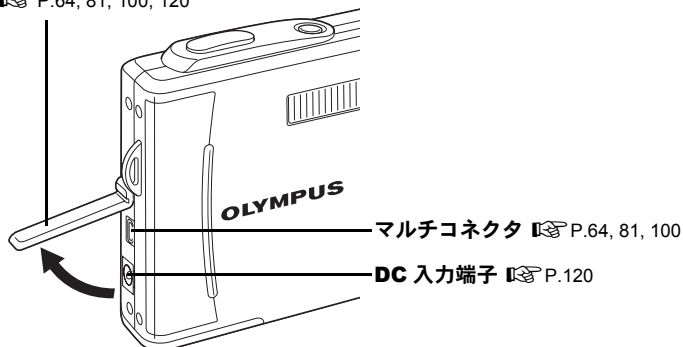
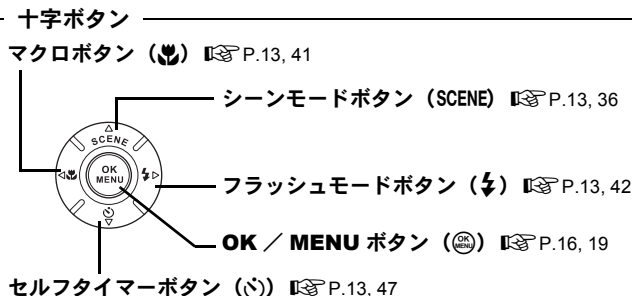
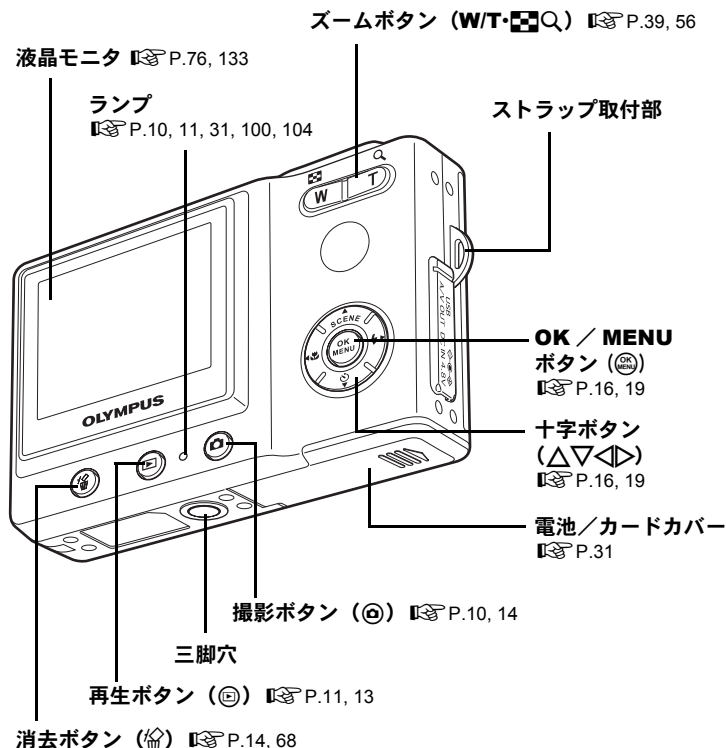
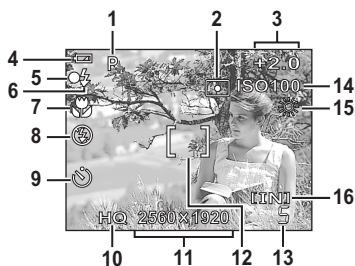
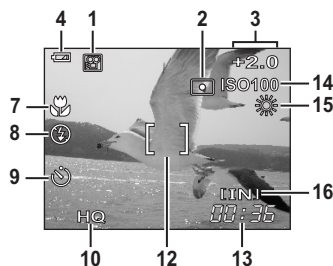
三脚穴

再生ボタン（▶）☞P.11, 13

消去ボタン（🗑）☞P.14, 68

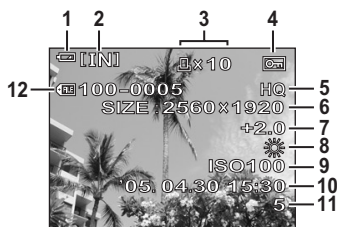
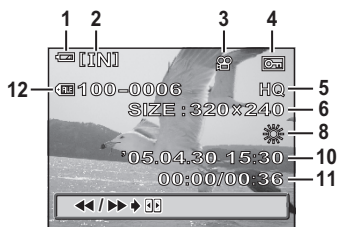
十字ボタン

液晶モニタの表示

●撮影モード

	項目	表示例	参照頁
1	撮影モード	P、[アイコン]、[アイコン]、[アイコン]、[アイコン]、[アイコン]、[アイコン]、[アイコン]、[アイコン]、[アイコン]	P.36
2	測光	[アイコン]、[アイコン]	P.53
3	露出補正	–2.0～+2.0	P.51
4	電池残量	[アイコン]、[アイコン]	–
5	緑ランプ	○	P.25
6	フラッシュ発光予告 フラッシュ充電	[アイコン] 点灯 [アイコン] 点滅	P.42
7	マクロ	[アイコン]	P.41
8	フラッシュモード	[アイコン]、[アイコン]、[アイコン]	P.42
9	セルフタイマー	[アイコン]	P.47
10	画質	SHQ、HQ、SQ1、SQ2、SQ	P.27
11	画像サイズ	2560 × 1920、1600 × 1200、640 × 480など	P.27
12	AFターゲットマーク	[ ]	P.25
13	撮影可能枚数 撮影可能時間	5 00:36	P.28, P.46
14	ISO感度	ISO64、ISO100、ISO200、ISO320	P.54
15	ホワイトバランス	[アイコン]、[アイコン]、[アイコン]、[アイコン]	P.52
16	使用メモリ※	[IN]、[xD]	P.30

※ [IN] マークは、カメラの内蔵メモリを使用しているときに表示されます。カードを挿入しているときは [xD] が表示されます。

●再生モード

再生モードでは、表示される情報量を［情報表示］機能のオン／オフで選択できます。下の画面は［情報表示］の機能をオンにしたときの画面です。☞「情報表示」（P.66）

静止画　ムービー

	項目	表示例	参照頁
1	電池残量	、	–
2	使用メモリ※	［IN］、［xD］	P.30
3	プリント予約・枚数 ムービー	×10	P.85 P.59
4	プロテクト		P.66
5	画質	SHQ、HQ、SQ1、SQ2、SQ	P.27
6	画像サイズ	2560 × 1920、1600 × 1200、640 × 480など	P.27
7	露出補正	–2.0～+2.0	P.51
8	ホワイトバランス	WB AUTO、、、、	P.52
9	ISO感度	ISO64、ISO100、ISO200、ISO320	P.54
10	日時	'05.04.30　15:30	P.77
11	コマ番号 再生時間／録画時間	5 00:00/00:36	P.87 P.59
12	ファイル番号	FILE 100 - 0005	P.75, 87

※［IN］マークは、カメラの内蔵メモリを使用しているときに表示されます。カードを挿入しているときは［xD］が表示されます。

ご注意

- ムービーの場合、画像を選択して表示したときと、ムービー再生中で表示内容が異なります。

索引

カメラ各部の参照先については、「各部の名前」をご覧ください。

索引

資料

10

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

お問い合わせいただく前に（お願い）

●より迅速、正確にお答えするために、お手数ですが以下の内容をあらかじめご確認ください。
●FAXまたは郵便でお問い合わせいただく場合は、必ずご記入ください。
●問題が発生したときの症状・表示されたメッセージ・症状の再現性など：パソコンが関係する問題は、とくに正確な状況把握が難しいので、お手数ですができるだけくわしくお知らせください。

●お名前（フリガナ）

●連絡先：郵便番号
ご住所（自宅か会社のいずれかを明記願います）
電話番号/FAX
E-mail

●製品名（型番）：

●シリアル番号（製品底面に記載されています）：

●お買い上げ日：

●問題が発生したときの症状・表示されたメッセージ・症状の再現性など：

＊以下は、カメラをパソコンと接続してご使用、またはソフトウェアをご使用の場合にお確かめください。
●ご使用のパソコンの種類：

パソコンメーカー・型番等

●メモリの容量　ハードディスクの空き容量：

●OS名とバージョン：
（Windows）コントロールパネル–システム–デバイスマネージャーの内容
（Mac OS）コントロールパネルや機能拡張の内容
●その他接続されている周辺機器名：

●問題のご使用アプリケーションソフト名とバージョン：

●問題のご使用弊社ソフト名とバージョン

オリンパス イメージング株式会社

〒163-0914　東京都新宿区西新宿2の3の1 新宿モノリス

● ホームページによる情報提供について

製品仕様、パソコンとの接続、OS対応の状況、Q&Aなどの各種情報を当社のホームページで提供しております。
オリンパスホームページ（**http://www.olympus.co.jp/**）から「お客様サポート」→「映像・情報分野」→「デジタルカメラ／プリンタ」へ進み、ご利用ください。

● 電話等でのご相談窓口

カスタマーサポートセンター

フリーダイヤル

0120-084215

携帯電話・PHSからは0426-42-7499

FAX　0426-42-7486

調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

営業時間　平日　9：30～21：00
土・日・祝日　10：00～18：00
（年末年始、システムメンテナンス日を除く）

● 修理に関するお問い合わせ、修理品ご送付先

TEL 0266-26-0330　　FAX 0266-26-2011

〒394-0083　長野県岡谷市長地柴宮3-15-1
オリンパス岡谷修理センター
営業時間9:00～17:00
（日曜、夏期・年末年始休業、システムメンテナンス日を除く）

● 国内サービスステーション（修理受付窓口）

東　京　〒101-0052　千代田区神田小川町1の3の1　小川町三井ビル（オリンパスプラザ内）　Tel.03（3292）3403
札　幌　〒060-0034　札幌市中央区北4条東1の2の3　札幌フコク生命ビル　Tel.011（231）2320
仙　台　〒981-3133　仙台市泉区泉中央１の13の4　泉エクセルビル　Tel.022（218）8421
名古屋　〒460-0003　名古屋市中区錦2の19の25　日本生命広小路ビル　Tel.052（201）9571
大　阪　〒542-0081　大阪市中央区南船場2の12の26　オリンパス大阪センター　Tel.06（6252）6995
広　島　〒730-0013　広島市中区八丁堀16の11　日本生命広島第2ビル　Tel.082（228）3821
福　岡　〒810-0004　福岡市中央区渡辺通3の6の11　福岡フコク生命ビル　Tel.092（761）4469

※ 土・日曜、祝日および年末年始・夏期休暇は原則として休業させていただきます。オリンパスプラザ内の東京サービスステーションは土曜も営業しております。

Printed in China　VH095902